

おいしさと健康



CSRレポート 2019

Glicoグループ

おいさと健康

Glicoグループは、創業者 江崎 利一が、「食品を通じて国民の体位向上に貢献したい」という信念のもと、グリコーゲン入りの栄養菓子グリコを開発したことに始まります。

以来、私たちはこの創業者の想いを受け継ぎ、企業理念「おいさと健康」を実現し、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として、創意工夫を重ねてまいりました。

「食品事業を通じて社会に貢献する」創業者 江崎 利一が残したこの言葉こそ、Glicoグループの原点であり、GlicoグループのCSR活動の根幹となる考え方です。創業者がグリコーゲンと出会って100年。

いま、おいさの感動、健康の喜び、そして生きることの輝きを世界中に広げることは、社会にとってますます大きな価値を持っています。

Glicoグループはこれからも、世界でこの使命を果たし続けていくために、時代の要請や期待に応え、新たな価値の創造にチャレンジし、社会とともに発展してまいります。



INDEX

編集方針	2
Glicoグループのプロフィール	3
GlicoグループのDNA	5
Glicoグループ価値創造の歩み	7
TOP MESSAGE	9
Glicoグループの重要課題(マテリアリティ)	13
CSR活動トピックス	15
CSR活動報告	
地球とともに	17
お客様とともに	21
取引先とともに	25
従業員とともに	27
地域社会とともに	30
株主・投資家とともに	33
コーポレート・ガバナンス	35
CSR活動総括	37
Glicoグループ会社一覧	38

編集方針

当CSRレポートは、ステークホルダーの皆さまに、GlicoグループのCSR (Corporate Social Responsibility) に対する考え方や、取り組み姿勢、具体的な活動についてご理解いただくことを目的に発行いたしました。これまでは、Webサイトを中心に情報を掲載してきましたが、2018年1月にCSR委員会が設立されたことを機にレポートを発行し、多くの皆さまにご理解いただけるような情報開示に努めました。

報告対象組織

江崎グリコ株式会社ならびにGlicoグループ各社 ※詳細は、P.38のGlicoグループ会社一覧をご覧ください。

報告対象期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日) ※一部2018年度以前の取り組みや2019年4月以降の活動も含んでいます。

発行月 2019年6月(年1回発行)

参考にしたガイドライン等

●GRIスタンダード ●環境省発行「環境報告ガイドライン(2012年版)」 ●ISO26000(社会的責任に関する手引き)

発行

江崎グリコ株式会社 経営企画本部 コーポレートコミュニケーション部

—— 企業理念 ——

「おいしさと健康」

おいしさの感動を 健康の喜びを 生命の輝きを
Glicoは、ハート・ヘルス・ライフのフィールドでいきいきとした生活づくりに貢献します。

HEART

おいしさの感動を

HEALTH

健康の喜びを

LIFE

生命の輝きを

—— Glicoスピリット ——

創る・楽しむ・わくわくさせる

創ることを精一杯楽しんで、大胆に行動を起こしてみよう。
面白いこと 新しいこと 愉快なこと 素晴らしいこと
創意に満ちたチャレンジは、きっとぼくらを わくわくさせる。
もっとみんなを わくわくさせる。

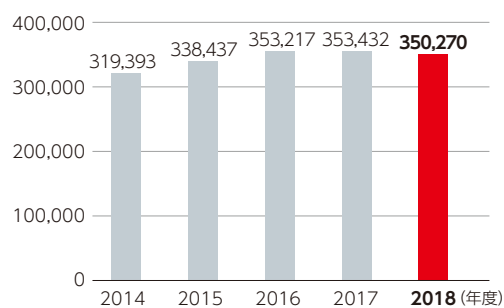
〈会社概要〉

商 号 江崎グリコ株式会社
社 長 江崎 勝久
創 業 1922年2月11日
設 立 1929年2月
資 本 金 7,773百万円
事 業 内 容 菓子、冷凍、乳製品、加工食品等の製造・販売
従 業 員 数 5,381名(連結)
本社所在地 〒555-8502 大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
海 外 事 業 12カ国、16社を中心に事業を展開

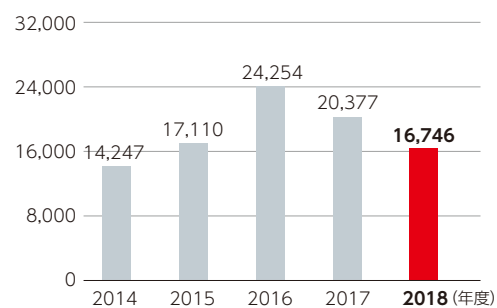


〈業績〉

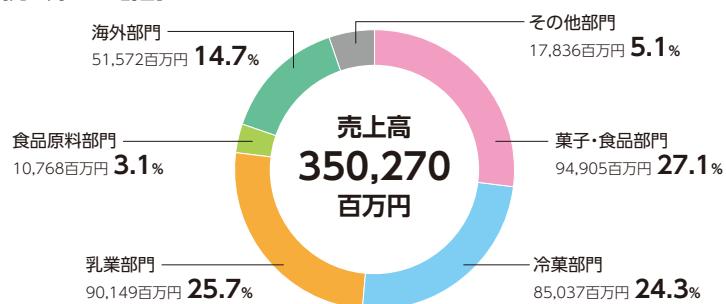
〔売上高〕(百万円)



〔営業利益〕(百万円)



〔セグメント別売上高とその割合〕



〈事業紹介〉





創業者 江崎 利一

社会のために——創業者が育んだ奉仕の精神

創業者 江崎 利一は1882(明治15)年、佐賀県佐賀市蓮池町に生まれました。

高等小学校を4年で卒業した満14歳の江崎 利一は、家業の薬種業を手伝うかたわら、中学の講義録を借り独学を続けました。父からは「商売に精を出して産をつくり、その金を分相応に人様のために使わねばならない」と社会奉仕の精神を教えられ、さらに近所に住んでいた篤学の士、樗村 佐代吉先生宅を訪ね、商売のあり方をはじめ多くを学んでいます。「商売は、自分のためにあるが、世の中のためにもある。売る人は物を売って利益を得るが、買う人もまたそれだけの値打ちの物を買って得をする」という樗村先生の教えは、「事業即奉仕」という言葉となり江崎 利一の生涯を支えました。

グリコーゲンとの出会い

1919(大正8)年、行商に出かけた江崎 利一は、筑後川下流の早津江川の土手で牡蠣を煮る漁師に出会います。エネルギー源として重要なグリコーゲンが日本の貝類、特に牡蠣に多く含まれているという新聞記事を思い出した江崎 利一は煮汁を分けてもらい、九州帝国大学付属医院に分析を依頼します。その結果、グリコーゲンのほかカルシウムや銅分等も含まれているのがわかったのです。

「おいしさと健康」の追求

受け継がれる創業の精神

1919(大正8)年、創業者 江崎 利一は牡蠣の煮汁に含まれているグリコーゲンに注目して、「栄養菓子グリコ」を創製し、1922(大正11)年に発売しました。栄養菓子グリコを普及させて「食品による国民の体位向上」を目指したのです。以来、その想いは、さまざまな商品・サービスに具現化され、今日に至っています。創業の精神は、現在の企業理念「おいしさと健康」へと表現を変えていますが、Glicoグループは一貫して事業を通じて社会に貢献することを追求し続けてきました。



発売当初の
栄養菓子グリコ
1922(大正11)年



栄養菓子グリコに封入されていた絵カード
1921~1926(大正10~15)年

翌年、8歳になった長男の誠一がチフスにかかり、衰弱のひどい状態が続き医者もさじを投げたと言われています。その時、江崎 利一は医者への許可を得て、研究中のグリコーゲンのエキスを少しずつ誠一に与えました。すると、誠一はなんと体力を取り戻したのです。

「息子を救ってくれたグリコーゲンを、広く世に役立てたい。薬にしようか」と考えた時、九州大学の先生から「病気になる者を治すよりは病気にかからぬ体をつくることだ」とアドバイスを得ます。「グリコーゲンを一番必要とするのは育ち盛りの子どもである。それならば子どもが喜ぶ菓子に入れたらどうか」。江崎 利一は子どもに人気だったキャラメルに着目しました。

栄養菓子グリコの創製

菓子についてはまったくの素人でしたが、江崎 利一は新しい菓子の名称、形、トレードマーク、キャッチフレーズを考えました。

商品名はグリコーゲンを含んでいるので「グリコ」。語呂もよく、文字数も少なく、覚えやすく新商品らしい響きを感じます。形はハート型にこだわりました。ハート型は人の心に通じると考えたのです。トレードマークはゴールインマークにしました。江崎 利一は家の近所の神社でかけっこをしていた子どもたちが両手をあげてゴールする姿を目にし、「ゴールインの姿は健康の象徴ではないか」と考えたからです。

江崎 利一はキャッチフレーズの効果も重視していました。ゴールインマークになぞらえて「一粒〇〇メートル」というキャッチフレーズを思いつきました。「100メートルでは短すぎる。500メートルでは長すぎる。300メートルがちょうどよい」と考え、グリコー粒を、人が300メートル走るのに必要なカロリーに調整し、「一粒300メートル」をキャッチフレーズとしました。パッケージも人目を引く赤色とし、他社との差別化を図りました。

おもちゃ封入——「心の健康」にも想いをはせて

「子どもにとって食べることと遊ぶことは二大天職である。栄養菓子グリコは、発育盛りの子どもの栄養補給源になる。その上、おもちゃである豆玩具をひとつの箱に入れば、子どもの知識と情操を向上させ、心の健やかな発育に役立つ」。江崎 利一は子どもの「カラダの健康」だけでなく「ココロの健康」にまで想いをはせ、栄養菓子グリコに発売当初は小さな絵カードを、やがて小さなおもちゃを入れました。おもちゃがついた栄養菓子グリコは、こうして誕生したのです。

おいしさにこめる創意工夫

栄養菓子グリコに始まり、さまざまな商品を開発しています。

一粒のアーモンドが丸ごと入った「アーモンドチョコレート」は、発

ルアイス」です。現在はさらに糖質オフを実現した「SUNAO（スナオ）」というブランドに進化しています。

おいしくて体に良いものを食べたいというお客様の想いを実現するために、Glicoは妥協せず、進化を続けています。

公益財団法人母子健康協会への支援

心豊かな暮らしのための活動の一環として、公益財団法人母子健康協会への支援を行っています。母子健康協会は1934年に創業者 江崎 利一が私財を投じて設立した財団法人で、「親と子の心身の健康増進に貢献すること」を目的として、子どもの健康の増進や疾病の予防とその治療に役立つ小児医学研究助成を中心に、機関誌の発行やシンポジウムの開催など多彩な活動を行っています。



年に一度、子どもたちの健康に関する情報を掲載した機関誌「ふたば」を発行しています。

1933



ビスコ
1933(昭和8)年

1958



アーモンドチョコレート 1958(昭和33)年

1966



ポッキーチョコレート 1966(昭和41)年

2003



カロリー
コントロールアイス
2003(平成15)年

売当時にはアーモンドをピンセットで一粒ずつつまんで製造していました。

また、チョコレートスナック「ポッキーチョコレート」は、当時人気だった「ブリッツ」に、持つところができるようにチョコレートをかけるというアイデアから生まれました。こうした商品のアイデアを具現化し、より多くのお客様にお届けするため、多くの製造設備を独自に開発してきました。

このようなアイデアと製造技術やノウハウの積み重ねが、独創的な商品を生む土壌となっています。Glicoの商品によって生まれる喜びをお客様に感じていただくために、創意工夫を惜しまないことが私たちの喜びでもあるのです。

健康を追究するあくなき姿勢

Glicoの第二の栄養菓子として発売された「ビスコ」は、胃腸の働きを助けると研究発表された酵母菌を、クリームに練り込むことで生まれたクリームサンドビスケットです。

現在の商品は、時代のニーズに合わせて、酵母菌の代わりに整腸作用のある乳酸菌をクリームに練り込んでいます。

また、「アイスは大好きだけど、カロリーが気になるから食べない」といったお客様の声に耳を傾け、医科大学の皆さんと一緒に研究・開発して生まれたのが、1個80キロカロリーの「カロリーコントロー

Glicoの商品を世界中へ

Glicoの活動は日本国内にとどまりません。タイ、フランス、中国、韓国、インドネシア、アメリカに製造拠点を設け、商品を現地の皆さまにお届けしています。昨今は、海外の製造拠点から周辺諸国への輸出にも積極的に取り組んでいます。

それは創業者をはじめ従業員が、事業を通じて社会に貢献したいという想いで商品の開発や製造に取り組んできたからに他なりません。

私たちは、これからも創業の精神を受け継ぎ、世界において企業理念「おいしさと健康」を実現することを目指し、企業活動を続けてまいります。

社会価値創造による Glicoブランドの成長

1919
(大正8年)

● 創業者 江崎 利一が、
牡蠣の煮汁に含まれる
グリコーゲンに出会う

1921
(大正10年)

● 栄養菓子グリコを創製し、
試験発売



1922
(大正11年)

● 大阪三越百貨店で栄養菓子グリコを発売
後に、この2月11日を
江崎グリコの創立記念日とする

1925
(大正14年)

● 大阪市北区豊崎に豊崎工場新設

1927
(昭和2年)

● 豆玩具を創案



1931
(昭和6年)

● 映画付きグリコ自動販売機を
東京の百貨店等に設置
現在の本社所在地、大阪市
西淀川区歌島に大阪工場新設



1932
(昭和7年)

● 中国に大連工場新設
大陸や南方へ展開

1933
(昭和8年)

● ビスコ 発売



1934
(昭和9年)

● 財団法人
母子健康協会を設立

1935
(昭和10年)

● 大阪ミナミの戎橋に
ネオン塔を設置



1937
(昭和12年)

● 東京工場新設

1945
(昭和20年)

● 大阪工場と東京工場が空襲により全焼
終戦で国内外の工場・資産を失う

1951
(昭和26年)

● 大阪工場、東京工場再建

1953
(昭和28年)

● 九州工場新設

1955
(昭和30年)

● アーモンドグリコ 発売



1956
(昭和31年)

● 江崎グリコ栄食を設立
佐賀県にグリコ協同乳業を設立

1957
(昭和32年)

● 小麦でんぷんの製造開始

1958
(昭和33年)

● アーモンド
チョコレート 発売



1960
(昭和35年)

● ワンタッチカレー 発売



1962
(昭和37年)

● プリッツ(ソーダスティック) 発売



1963
(昭和38年)

● グリココーン(のちの
ジャイアントコーン) 発売



1966
(昭和41年)

● グリコ協同乳業7社が合併
● ポッキーチョコレート 発売



1969
(昭和44年)

● ヨーグルト健康 発売



1970
(昭和45年)

● タイグリコを設立

1972
(昭和47年)

● 江崎記念館竣工
● 食品用着色料モナスカラー発売
● プッチンプリン 発売



1973
(昭和48年)

● 高原牛乳1000ml 発売



1978
(昭和53年)

● パナップ 発売



1979
(昭和54年)

● カフェオーレ、
カフェゼリー 発売



1982 (昭和57年) ● 江崎グリコ栄食とグリコハムが合併し、グリコ栄養食品を設立
● ジェネラルビスケット グリコフランス (GBGF) を設立

1985 (昭和60年) ● セブンティーンアイス自動販売機展開を開始

1986 (昭和61年) ● 生物化学研究所を新設
● レトルトビーフカレーLEE 発売
● アイスの実 発売

1988 (昭和63年) ● グリコピア神戸オープン

1989 (平成元年) ● レトルト丼・DONBURI 発売

1992 (平成4年) ● 企業理念「おいしさと健康」、Glico Spirit「創る・楽しむ・わくわくさせる」、新ロゴマークを発表

おいしさと健康
Glico

1995 (平成7年) ● 熟カレー 発売
● 上海グリコを設立

1996 (平成8年) ● インターネットに初の会社ホームページ「グリコ夢のレストラン」開設

1997 (平成9年) ● 朝食りんごヨーグルト 発売

1999 (平成11年) ● 11月11日を「ポッキー&プリッツの日」に制定

2000 (平成12年) ● グリコ協同乳業がグリコ乳業に社名変更 江崎グリコの100%子会社に
● 江崎グリコ本社、全製造会社が、ISO14001 (環境マネジメントシステム) の認証取得

2001 (平成13年) ● アイクレオをGlicoグループ傘下に

2002 (平成14年) ● オフィスグリコ事業を本格展開
● Glicoグループ行動規範を制定

2003 (平成15年) ● 米国江崎グリコ設立
● 特定保健用食品ポスカム 発売
● カロリーコントロールアイス 発売

2004 (平成16年) ● カレーZEPPIN〈絶品〉発売

2005 (平成17年) ● メンタルバランスチョコレート GABA (ギャバ) 発売

2008 (平成20年) ● チーズザ 発売

2009 (平成21年) ● アイクレオのバランスミルク、アイクレオのフォローアップミルク 発売

2010 (平成22年) ● グリコワゴンが全国縦断開始

2012 (平成24年) ● グリコ栄養食品が会社分割
● グリコピア・イーストオープン
● ベトナム、インドネシアでポッキー本格発売

2013 (平成25年) ● 韓国でポッキー発売
● インドネシアにグリコウイングス設立

2014 (平成26年) ● グリコハムの全株式を譲渡
● マレーシアでポッキー発売
● グリコインドネシアを設立
● 6代目グリコサインが点灯 (LED照明に変更)

2015 (平成27年) ● 17の製造会社とマーケティング部門、SCM部門でFSSC22000の認証取得
● グリコフローズン (タイランド) 設立
● 江崎グリコがグリコ乳業を吸収合併

2016 (平成28年) ● タイでアイスの販売開始
● グリコ千葉アイスクリーム拡張
● グリコチャネルクリエイイト設立
● インドネシアでアイスの製造販売開始

2017 (平成29年) ● グリコマレーシア設立
● グリコアジアパシフィック設立
● グリコカナダコーポレーション子会社化
● グリコピアCHIBAオープン

2018 (平成30年) ● 米国のチョーベンチャーズを買収
● グリコフィリピン設立
● グリコピア神戸リニューアルオープン

2019 (令和元年) ● アイクレオを吸収分割 (合併)

「もっと、世の中に役立つ事業をしたい」 創業の精神はGlicoグループのCSR活動に生きています



Glicoグループの原点

「おいしさと健康」——それは、「世の中に役立つ事業をしたい」という創業者 江崎 利一の信念がGlicoグループの中で変わることなく生き続け、未来へと受け継いでいく企業理念です。

少年時代から家業を手伝い、父親から薬種業を引き継いだ創業者は、「商売というものは、自分のためにあるとともに、世の中のためにもある」という商売の本質を学び取っていました。この本質から外れることなく、常に、世の中に役立つことを目指して模索し、たどり着いた独自の事業テーマが、栄養菓子グリコの創製でした。

子どもたちをはじめ、多くの人々の栄養状態が不十分であった1922年の創業当時、栄養価の高いグリコーゲンを活用して開発した栄養菓子グリコには、広く国民の健康増進に寄与したいという創業者の強い想いが込められていました。これを反映し、創業の理念には、「食品による国民の体位向上に寄与する」という表現が用いられていました。

その後も創業者は、薬学、栄養学から販売や宣伝、心理学等を独力で学び、創意工夫を重ね、生涯にわたって「いかにして世の中に貢献するか」を追求し続けました。

企業理念は、時代とともに「おいしさと健康」へと表現を変えましたが、その根底を流れる創業者から受け継いできた志は、少しも変わっていません。「食品事業を通じて社会に貢献する」。それがGlicoグループの多様な事業、さらには過去、現在、未来をひとつにつなぐ原点です。

企業理念の実現のために

創業者は、「子どもにとって食べることと遊ぶことは、二大天職である」という想いから、栄養菓子グリコとおもちゃを一体として発売することを思いつきました。発育盛りの子どもの栄養源となるグリコにおもちゃを添えることで、子どもの情操を向上させ、カラダだけでなく、ココロの発育にも役立つ商品にしたいという発想でした。

このように、食品事業を通じた貢献をカラダの健康に限定することなく広げていこうとする考え方は、現在の企業理念である「おいしさと健康」の中にもしっかりと息づいています。だからこそ理念には、ハート(おいしさの感動)・ヘルス(健康の歓び)・ライフ(生命の輝き)という広範なフィールドでいきいきとした生活づくりに貢献していくことが、はっきりと明記されています。

この企業理念の追求に欠かせないのが、創業者から受け継いだ創意工夫の精神であるGlicoスピリット、「創る・楽しむ・わくわくさせる」です。さらに、Glicoスピリットを発揮して企業理

念を追求していくために、私たちがとるべき行動のあり方を示したものが行動規範です。

これら、企業理念、Glicoスピリット、行動規範の3つのよりどころもまた、「食品事業を通じて社会に貢献する」というGlicoグループの原点となる考え方によって深く結ばれています。GlicoグループにとってCSRとは、自らの理念の実現になくはないものと考えています。

経営と一体のGlicoグループのCSR

現在、Glicoグループは、菓子、冷凍、乳製品や加工食品等の領域で事業を展開し、乳幼児の成長やお客様の健康をサポートする商品の拡充や、健康機能を持つ食品素材の研究・開発等にも力を入れています。企業を取り巻く環境が激しく変化し続ける中、常に時代を先読みしながら事業を拡大し、世界中において存在価値を高めていきたいと考えています。

Glicoグループの使命は、どんな時代にも変わることなく、「事業を通じて社会に貢献すること」にあります。変わりゆく時代の要請や期待に応え続けていくことが必要であり、そのための活動がCSRと捉えています。

したがって、経営とCSRは不可分の関係にあり、今後も、力強い経営の推進とCSRの一層の遂行を、一体のものとして追求し続けてまいります。

CSR活動推進に向けた委員会の設置

CSRはまさに私たちの事業活動そのものであるという観点に立ち、2018年1月、CSR活動を一層推進していくため、活動全体の意思決定機関であるCSR委員会を中心とした推進体制を立ち上げました。

ISO26000、国連グローバル・コンパクトといった国際的な指標を念頭に環境、消費者、公正取引、人財、地域貢献の5つの部会を設け目的・目標を設定し、GlicoグループのCSR活動を推進するため、今後取り組むべき課題に関する議論を行っています。また、各職場にCSR職場推進リーダーを設置し、部会と連携して現場レベルで活動しています。

具体的な取り組みをますます加速させ、「事業を通じて社会に貢献する」会社であり続けることを目指します。



持続可能な社会の実現に向けて

CSR委員会を中心とした推進体制立ち上げの背景にも、より良い社会の実現を目指すという強い想いがあります。CSR活動を推進、深化させていけば、貢献すべき社会は、大きく世界へと広がっていきます。世界には、貧困や差別など未解決の課題が多く存在しており、持続可能な社会を実現するための国際目標であるSDGsの達成に貢献していくためにも、積極的に社会課題の解決に取り組んでいかねばなりません。そのためには、とても一企業の力の及ぶところではありませんが、まずは得意とする分野において、さまざまな人と共にアクションを起こすべきだと考えてきました。Glicoグループでは現在、経営資源の選択と集中による競争力の強化と、持続的成長に向けた経営基盤の強化を基本方針に掲げ、世界において新たな価値を創造するための活動を加速しています。

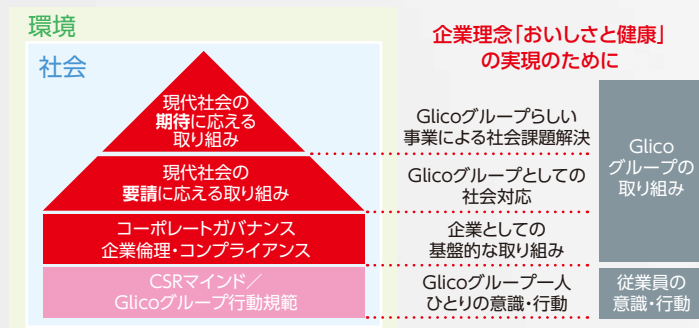
私たちは、Glicoグループらしい事業による社会課題解決によって現代社会の期待に応えていくために、視野を世界へと広げ、歩み続けます。同時に、ステークホルダーの皆さまに向けて、事業や社会活動を通じて貢献し続けることを、ここにお約束いたします。

今後ともより一層のご支援をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

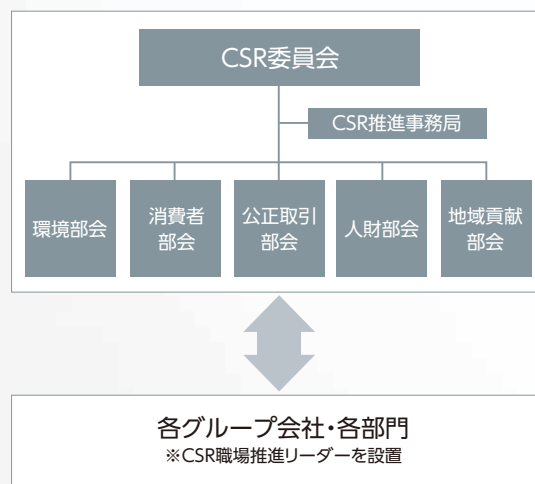
江崎グリコ代表取締役社長 江崎 勝久

〈GlicoグループのCSRの考え方〉

Glicoグループは、創業者 江崎 利一が、「食品を通じて国民の体位向上に貢献したい」という信念のもと、グリコーゲン入りの栄養菓子グリコを創製したことに始まります。私たちは、この創業者の想いを受け継ぎ、企業理念「おいしさ健康」を実現し、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として活動して参りました。これからの時代においても、世界でこの使命を果たし続けていくため、変わり行く時代の要請や期待に応え、新たな価値の創造にチャレンジし、社会とともに発展して参ります。



〈CSR推進体制〉



Glicoグループ行動規範

本行動規範は、Glicoグループが事業を通じて社会に貢献し続けるために、即ち、企業理念「おいしさと健康」をGlicoスピリット「創る・楽しむ・わくわくさせる」を通じて実現するために、私たちがとるべき行動のありかたを示したものです。本行動規範は、Glicoグループの全ての役員、及び従業員に適用されます。

1. 私たちは、世界のお客様の信頼に応える安全安心な商品・サービスと有益な情報を提供し、お客様のココロとカラダの健康に貢献します。

- (1) お客様に対して常に共感し、真摯に向き合い、社会に役立つ商品・サービスを開発し、提供します。
- (2) 世界標準に対応する品質保証の向上に取り組めます。商品の安全性に問題が生じた場合、原因追究・再発防止策を徹底して行います。
- (3) 品質の維持向上のために、計画、実行、チェックの機能が有効に働く体制・運用方法を絶えず追求します。
- (4) お客様のお申し出には、迅速かつ誠意をもって対応します。
- (5) 商品に関して、適正でわかりやすい表現・表示を行います。

2. 私たちは、法令・社会規範を遵守し、高い倫理観をもって公正・公平な事業活動を推進します。

- (1) 公務員や政治家はもちろんのこと、ビジネスパートナーとの適切な関係を保ち、あらゆる形態での腐敗を防止します。
- (2) カルテル、談合等の自由な競争を阻害するあらゆる行為に関与せず、市場にて適切な競争を行います。
- (3) 資産の有形・無形を問わず、第三者が保有する正当な財産権を尊重した活動を行います。
- (4) 上記各項目および、人権、労働、環境などに配慮した活動が、バリューチェーンの全てにおいて実践されるよう取り組みます。

3. 私たちは、広く社会とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築します。

- (1) 全てのステークホルダーに、透明性、適時性、公平性、継続性を重視した情報開示・コミュニケーションを行います。
- (2) 広報活動を重視し、企業情報を提供したうえで、双方向のコミュニケーションを図ります。
- (3) 個人情報、機密情報は厳格に管理し、保持します。

4. 私たちは、環境にやさしい企業活動を推進します。

- (1) 環境汚染や地球温暖化の防止、資源の有効活用を通じて、大切な地球の生物多様性と持続可能性の確保に取り組めます。
- (2) 原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。
- (3) 自然の恵みのもとに事業活動を行っていることを理解し、将来世代へこの恵みを引き継ぐため、環境保全への意識向上に取り組めます。

5. 私たちは、良き企業市民としての役割を自覚し、地域の人々と共生し、コミュニティの持続的な発展に貢献します。

- (1) 事業活動を通じて、人々の健康増進への貢献と、経済・文化・福祉の発展に努めます。
- (2) 地域社会との対話により課題やニーズを把握し、地域社会の期待に応えるよう努めます。
- (3) 事業活動で培った知見や技術を活用した教育支援や地域活性化取り組みを通じて、地域社会の課題解決を目指します。

6. 私たちは、基本的人権を尊重し、多様な人が活躍できる環境づくりに取り組めます。

- (1) あらゆる形態の強制労働や児童労働を否定し、利用しません。
- (2) 年齢、性別、人種、宗教等による、あらゆる差別をせず、全ての人に等しく機会を提供します。
- (3) 社員が働きがいを感じ、多様な個性や能力を発揮できるよう、労働環境の維持、向上に取り組めます。
- (4) 人財こそがGlicoグループ発展の源泉であると認識し、能力開発と心身の健康増進に取り組めます。

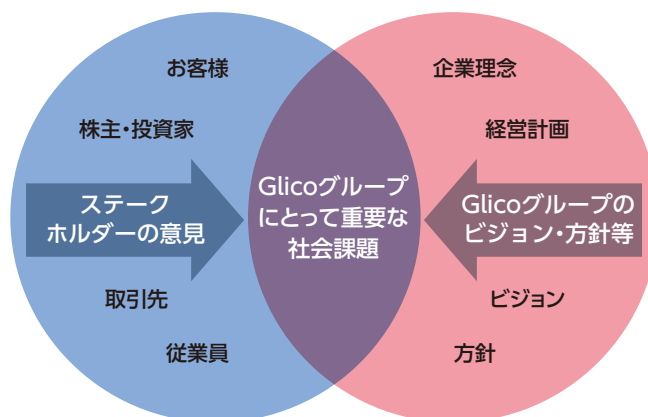
Glicoグループの重要課題(マテリアリティ)

国際的なガイドラインに即した重要課題(マテリアリティ)の特定

Glicoグループでは、CSRマネジメントの充実を図るために、経営の重要課題(マテリアリティ)を明らかにするため、調査・分析を行いました。

分析の際は企業の非財務情報開示の国際基準であるGRIスタンダードを参照しています。

これは今後のCSR活動の計画・目標作りの土台になるとともに、CSRレポートの客観性等を高めるための取り組みです。



参照アンケート

①お客様

お客様センターに寄せられたご意見

②株主・投資家(機関・個人)

定時株主総会質疑応答
江崎グリコ 株主・投資家アンケート
決算説明会アンケート
個人投資家説明会アンケート
会社説明会アンケート

③取引先

取引先アンケート

④従業員

従業員アンケート

<重要課題を特定するステップ>

STEP
1

私たちに関わりの深いステークホルダーの方々のGlicoグループに対する意見(各種アンケート)を解析することにより、重要な社会課題の抽出を試みました。

STEP
2

Glicoグループ内の役職者等に意識調査を実施し、STEP1で抽出された社会課題の重要性について順位づけを行いました。

STEP
3

ステークホルダーにとっての重要性(STEP1)とGlicoグループにとっての重要性(STEP2)の二つの視点を組み合わせて重要なテーマを絞り込み、CSR委員会による合議を経て、重要課題を特定しました。

STEP

1

ステークホルダー視点によるGlicoグループの社会課題の抽出

①ステークホルダー別のアンケート調査結果における全ての回答を分析し、Glicoグループにとっての重要な社会課題を抽出。そこから重要課題の候補となる項目をリストアップし、13のカテゴリーに分類。

②分類した13のカテゴリーに、ステークホルダーの回答数に準じて重要性得点を付与。

③各カテゴリーの重要性得点合計に応じて、カテゴリーの順位を決定。

④決定した各カテゴリーの順位に従って、重要課題マップの縦軸にプロット。

重要性の高い13のカテゴリー(縦軸)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 a. 企業統治 | 8 h. 供給 |
| 2 b. マーケティング・商品価値の向上 | 9 i. 健康増進・育児支援 |
| 3 c. 情報開示 | 10 j. 環境 |
| 4 d. 品質安全 | 11 k. 健全な事業活動・企業価値の向上 |
| 5 e. 調達 | 12 l. 株主還元 |
| 6 f. 働きやすい職場づくり | 13 m. 海外事業 |
| 7 g. 人材育成(スキル) | |

STEP

2

Glicoグループ視点による重要性の高い社会課題の選定

①STEP1で分類された13のカテゴリーについて、Glicoグループの役職者等にアンケートを実施。

②13のカテゴリーについて、重要度が高いと思われる経営課題の順に重要性得点を付与。

③各カテゴリーの重要性得点合計に応じて、カテゴリーの順位を決定。

④決定した各カテゴリーの順位に従って、重要課題マップの横軸にプロット。

重要性の高い13のカテゴリー
(横軸)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 b. マーケティング・商品価値の向上 | 7 g. 人財育成(スキル) |
| 2 d. 品質安全 | 8 i. 健康増進・育児支援 |
| 3 k. 健全な事業活動・企業価値の向上 | 9 l. 株主還元 |
| 4 f. 働きやすい職場づくり | 10 j. 環境 |
| 5 a. 企業統治 | 11 h. 供給 |
| 6 m. 海外事業 | 12 c. 情報開示 |
| | 13 e. 調達 |

STEP

3

重要課題の特定

①STEP1、2で縦軸・横軸にプロットされた13のカテゴリーを、重要課題マップ上にマッピング。

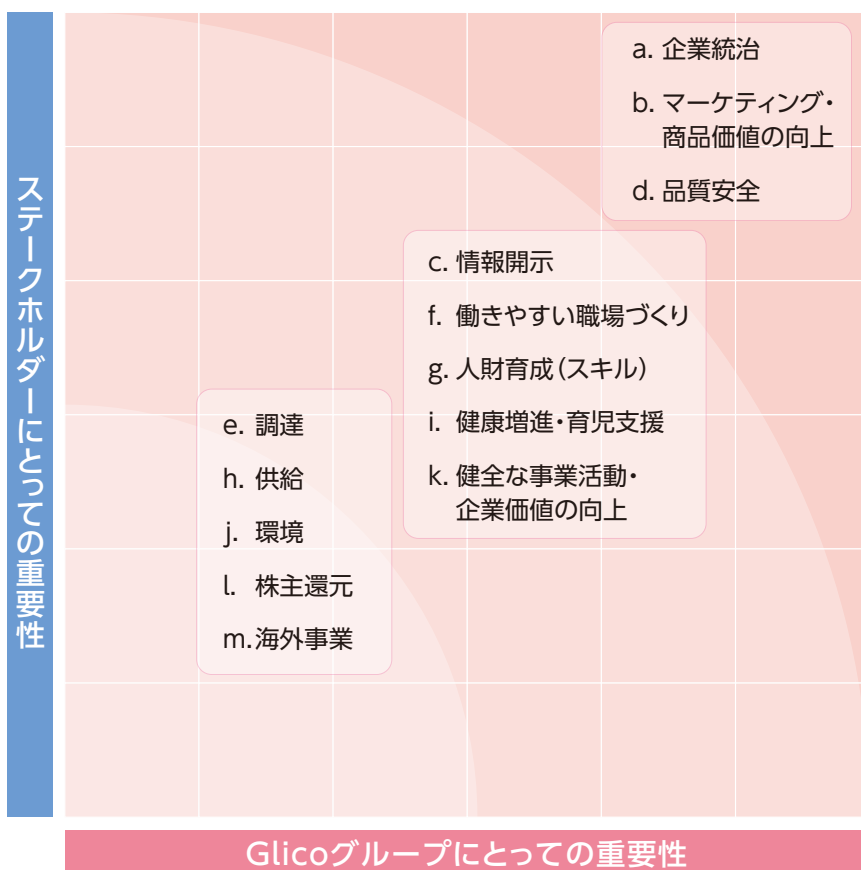
②ステークホルダーにとって重要度が高く、かつGlicoグループにとっても重要度の高い項目を特定。

③この結果をCSR委員会に諮り、合議を経たうえで、Glicoグループの重要課題として特定。



CSR委員会による討議

Glicoグループの重要課題マップ



特に重要度の高い3つのカテゴリーについては、当報告書に「CSR活動トピックス」を掲載(P.15~16参照)

TOPICS 1

企業統治

TOPICS 2

マーケティング・商品価値の向上

TOPICS 3

品質安全

Glicoグループにとっての重要性

CSR活動トピックス

Glicoグループの重要課題として、特に重要度が高いと特定された3つのカテゴリに関する活動トピックスを報告いたします。

TOPICS 1 企業統治

グループ一丸となったCSR推進に向けて

—— 第1回CSRサミット開催



第1回CSRサミットの様子(方針説明)

Glicoグループでは、社会の要請に誠実に対応し、事業を通じた社会課題解決の取り組みを加速させていくため、2018年4月27日に「第1回CSRサミット」を開催しました。

本サミットでは、日本、中国、韓国、ASEANの拠点を接続し、CSR委員会関係者およびCSR職場推進リーダーの合計約140名が参加しました。

冒頭、CSR委員長よりグループ共通のCSRの考え方や意義が共有され、続いて各部長(環境・消費者・公正取引・人財・地域貢献の5部会)より、目的・目標が示されました。その後、「現代社会を踏まえて取り組むべき重要課題と解決策のアイデア」

TOPICS 2 マーケティング・商品価値の向上

「Pocky 地元応援プロジェクト」第1弾

—— 公益財団法人を通じて、長野県の農業団体に助成金を贈呈



Share happiness! Pocky
分かち合っていて、いいね!

各地の主要駅や空港等の土産店で販売する地元ポッキー

全国各地の主要駅や空港等の土産店で販売している「地元ポッキー」は、地域の行政・JA・農家の方々等、地域コミュニティの協力を得て商品の原料開発を行うとともに、地域の厳選素材・人・土地の魅力を発信しています。

そのなかで、長野県の農家の方々との対話を通じ、「旬のおいしい特産品を食べてもらいたい」「特産品の魅力を知ってもらいたい」という想いに触れ、特産品を地元ポッキーとともにお届けする「Pocky地元応援プロジェクト」をスタートしました。

このプロジェクトでは、クラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」を活用し、旬の特産品と地元ポッキーを知って

TOPICS 3 品質安全

日本初、乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を販売開始

—— 災害時の備えと育児の負担軽減に



アイクレオ赤ちゃんミルク

近年の度重なる自然災害によって、非常時に赤ちゃんの命をつなぐミルクの確保が難しいことが明らかになってきました。また、お母さんへの過度な育児負担が問題視される中、調乳不要の液体ミルクが注目されるようになりました。女性労働率が高く子育て先進国と呼ばれる北欧では、育児をサポートするツールとして50年ほど前から液体ミルクが活用されています。

そうした社会課題を背景に、日本においても液体ミルクの発売が急務と捉え、江崎グリコでは2016年から開発に着手し、新生児から飲める安全性と、注ぐだけで準備できる簡単さを両

をテーマとしたワークショップも開催し、今後グループ全体として注力すべき課題や、各グループ会社・部門等の現場レベルにおいてどのような対応が必要かについて、16の班に分かれて活発な議論を行いました。

本サミットの参加者を対象としたアンケート調査では、参加者のうち95%が「CSR推進に向けて活動意欲が高まった」と回答し、視座を高める重要な機会となりました。

今後も、継続的にCSRサミットを開催し、グループ一丸で活動を前進させていきます。



第1回CSRサミットの様子(ワークショップ)

もらうだけではなく、地元の魅力を伝えることで、農業活性化のための活動資金を募集しました。その結果、1カ月間で当初の目標金額を上回る支援金が集まり、支援者に旬の信州巨峰と「ポッキー〈信州巨峰〉」等をお届けしました。集まった総額60万円の活動資金は、公益財団法人「長野県みらい基金」を通じ、公募で決定した6つの農業関連団体に助成金として贈呈し、将来の農業の担い手を増やすための活動や農業育成事業に使用される予定です。

今後も、「地元への恩返し」をテーマに、地元ポッキーを通じた地域コミュニティへの貢献に取り組んでいきます。



2018年12月20日「Pocky 地元応援プロジェクト基金」の贈呈式

立した「アイクレオ赤ちゃんミルク」を開発しました。同商品は2019年3月5日に、消費者庁より特別用途食品の表示許可を受け、同日、自社通販サイトにて販売を開始しました。

長期保存ができるため災害時の備えに有効なほか、外出時や調乳に不慣れな家族に預ける際にも便利で、育児の負担軽減をサポートします。災害時には赤ちゃんの命を守り、日常では子育てを支援する取り組みを進めていきます。



2019年3月11日「アイクレオ赤ちゃんミルク」体験会の様子



地球とともに

私たちは、環境にやさしい企業活動を推進します

Glicoグループは、自然の恵みがあるからこそ事業活動が成り立っていることを理解し、事業上の決定や行動において、地球環境に与える影響を考慮しています。そして、大切な地球の持続可能性を確保し、将来世代へこの恵みを引き継ぐために、バリューチェーン上の様々な過程における環境負荷の低減を図っています。

環境マネジメント

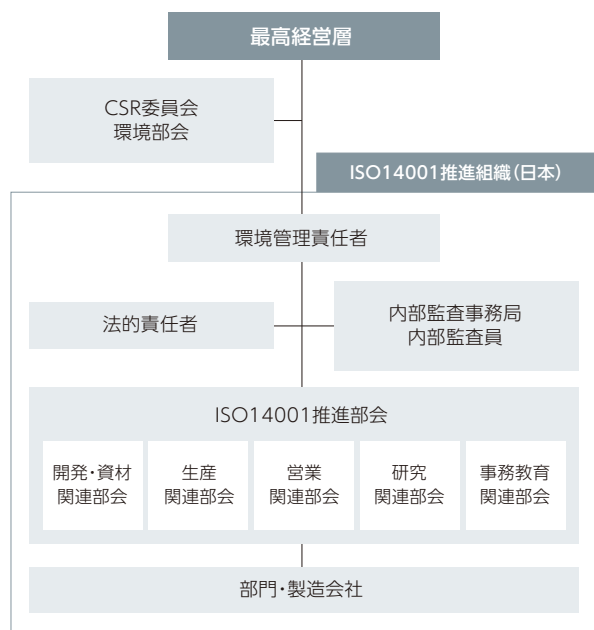
環境マネジメントシステム

Glicoグループは、古くから公害対策や省エネルギー・省資源に取り組んできました。2002年2月からは「環境方針」を制定し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の要求事項に基づいて、継続的に環境負荷の低減や環境保全に取り組んでいます。

《ISO14001の認証取得会社》

- 江崎グリコ
- 東北グリコ乳業
- 仙台グリコ
- 那須グリコ乳業
- 茨城グリコ
- グリコ千葉
- アイスクリーム
- 関東グリコ
- 東京グリコ乳業
- 岐阜グリコ乳業
- 三重グリコ
- 関西グリコ
- グリコ兵庫アイスクリーム
- 鳥取グリコ
- 佐賀グリコ乳業
- 上海江崎格力高食品有限公司関行第一分公司
- 上海江崎格力高食品有限公司関行第二分公司
- 上海江崎格力高南泰食品有限公司
- Bangkok Factory, Thai Glico Co., Ltd.
- Rangsit Factory, Thai Glico Co., Ltd.

環境活動推進体制



Glicoグループ環境方針

環境取り組みに関するGlicoグループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため、環境方針を定めています。

また、環境方針をホームページ上にも公開し、お客様や取引先をはじめとするステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

Glicoグループ環境方針

地球規模での自然保護や豊かな人間性の回復へと向かう現代において、わたしたちは、Glicoグループの企業理念である「おいしさと健康」のもと、環境にやさしい企業活動を推進していきます。

- わたしたちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取組みます。
- わたしたちは、環境汚染や地球温暖化の防止に取組み、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。
- わたしたちは、企業活動の質的向上につなげるため、業務の見直しや効率化に取組みながら、マネジメントシステムを継続的に改善し、その有効性を高めていきます。
- わたしたちは、環境保全への意識向上を図ると共に、従業員が安全に、そして安心して働けるような事業所を追求していきます。
- わたしたちは、お客様をはじめとする社会とのつながりを大切にしながら、様々なコミュニケーションや社会貢献の活動を推進します。

この環境方針は、あらゆる人々に公開します。

2016年4月改訂

Glicoグループ環境活動指標

- 商品・サービスへの環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 環境汚染の防止
- 資源の有効活用
- 業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上
- 環境教育や安全取り組み
- 環境コミュニケーションの推進

《エネルギー・
原材料の供給》

《商品の開発、製造、販売》

《商品・サービスの提供》

原産地

供給者

**Glicoグループ
及び協力会社**

販売
チャネル

消費者

バリューチェーン全体において、環境にやさしい企業活動を推進しています。

商品・サービスへの環境負荷低減

環境に配慮した商品企画・設計

Glicoグループでは、安全・安心な商品を提供するため、原材料をはじめとする様々な資源を使用しています。原材料の調達から、製造、消費に至るまでの環境負荷を低減するため、開発・企画段階から環境に配慮した商品設計を行っています。

商品原料の集約化(効率的な調達・使用)

「おいしさ」や「健康」にこだわり、品質を追求するための原料研究を進める一方で、効率的で無駄のない製造を行うために、原料数の集約も進めています。

環境に配慮された原材料・包装材料の調達

環境配慮された原材料の調達を進めるとともに、原材料が納入される際の梱包材についても環境配慮されたものを使用しています。また、環境配慮型プラスチックや紙、インクの採用も進めています。

容器・包装の減量化

品質向上を目指し、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでいます。

〈事例〉

- 対象商品:
 - ・アーモンドピーク
 - ・神戸ローストショコラ
- 減量策:
 - プラスチックトレイの軽量化
- 削減量:
 - 4.1t(2018年度)



家庭排出ゴミ減容の取り組み

お客様が容器・包装を捨てる際に分別しやすいよう、商品には包装材料の種類やリサイクルマークを表示しています。また、箱型商品については、小さくたためる加工を行い、家庭から排出されるゴミの体積を減らす工夫を行っています。

海洋プラスチック問題への取り組み

プラスチックごみによる海洋汚染が世界的に問題となっています。Glicoグループでは、商品の購入や飲食シーンを検討した結果、「カフェオーレ」(500ml容量)のストロー貼付を終了いたしました。(2019年3月)

- 削減見込量: 6.1t/年(2018年度の年間販売量換算)



自動販売機における対応

「セブンティーンアイス」や飲料・デザートは、自動販売機でも販売しています。Glicoグループでは、使用する自動販売機を計画的に省エネタイプに切り替えています。

セブンティーンアイス専用自動販売機

2014年度機比較
35%省エネ

●真空断熱材追加 ●LED照明



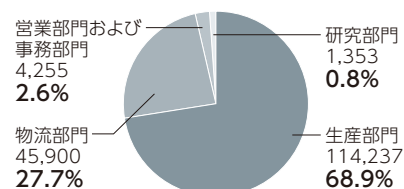
省エネタイプの自動販売機

地球温暖化防止

企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量削減に取り組んでいます。また、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネタイプへの切り替えを進めています。

〈CO₂排出量の部門割合(2018年度)〉

(単位: t-CO₂)



※生産部門、営業部門および事務部門、研究部門については、2018年12月公表の電気事業者別の調整後排出係数を使用。

※物流部門は、省エネ法特定荷主定期報告(平成29年度)による。燃料法・燃費法・トンキロ法を組み合わせる算出。原材料納入、商品配送、廃棄物運搬、オフィスグリコ配送、自社倉庫に関わるエネルギー使用量

※CO₂の排出部門の範囲: ISO14001認証グループ会社(日本)およびその物流委託会社

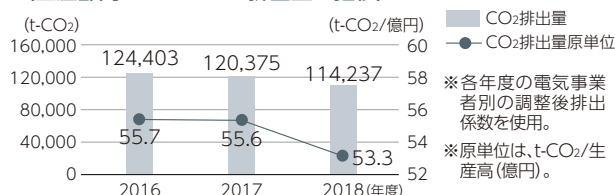
生産部門の取り組み

生産部門では、電気やガスだけでなくさまざまなエネルギーを使用していますが、業務の効率化を図り、省エネを推進しています。また、エネルギーを使用する設備は、計画的に省エネタイプに更新しています。CO₂の排出量が多い重油を使用する設備は、効率を考慮しながら計画的にガス化するなど、エネルギー転換を行います。

水の使用に関しては、一部の工場で工業用水を浄化し、トイレ等の用水として使用したり、一部の生産ラインでは、冷却排水を冷凍設備の冷却に再利用しています。

マネジメントシステムの継続的改善により、CO₂排出量原単位での毎年1%以上の削減を目標にしています。

〈生産部門におけるCO₂排出量の推移〉



2018年度のCO₂排出量は、生産量の減少も影響し、減少傾向となりました。CO₂排出量原単位については、電力購入先の見直しや、工場の統廃合により、改善につながりました。



物流における取り組み

Glicoグループでは、商品の輸送時のエネルギー使用量や、積載効率等にも配慮して、CO₂の削減を進めています。

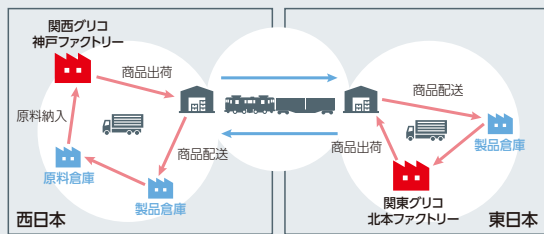
- 物流全体の効率を踏まえた物流拠点の展開・見直し
- 同業他社との共同配送の拡充による配送効率の向上
- 増トン車活用による積載量の向上
- 鉄道輸送へのモーダルシフトの推進

江崎グリコは、エコレールマーク取り組み企業として認定されています。



『平成30年度グリーンパートナーシップ優良事業者表彰』において、『経済産業省商務・サービス審議官表彰』を受賞（日本貨物鉄道株式会社、全国通運株式会社との協働）

「31フィートコンテナ」を活用し、原料納入や商品出荷・配送における鉄道&トラックの輸送を共通化することにより、環境負荷低減とドライバーの労働環境の改善に貢献しました。



〈改善ポイント〉
 トラック輸送から鉄道輸送への転換による環境負荷低減
 同一コンテナでの原料納入・商品出荷による生産性向上

オフィスでの取り組み

オフィスで最もエネルギーを使用するのは、空調設備です。電気の使用量を削減するために、クールビズ・ウォームビズを推奨し、来社されるお客様にも趣旨をご理解いただけるよう掲示を行っています。

また、照明や電子機器を省エネ型にしたり、不要時の電源OFF徹底を呼び掛けています。

営業における取り組み

営業部門では、業務の効率化や省エネ、エコドライブを推進しています。CO₂の排出が少ないハイブリット車への入れ替えを進めています。また、グリコチャネルフリエイトでは、走行時のCO₂排出が少ない電気自動車を導入しています。

環境汚染の防止

ISO14001認証取得事業所では、環境法令遵守の仕組みに基づき、法令や地方ごとの条例等のチェックや、監視・測定を行っています。

また、環境汚染物質の漏洩を想定した訓練を定期的実施しています。



関西グリコ神戸ファクトリーでの訓練の様子。油が漏洩し、雨水系統へ流入したことを想定し、対応手順を確認しました。(2018年10月)

資源の有効活用

ゼロエミッション達成に向けた取り組み

ゼロエミッション達成*を目指し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進しています。

*焼却時に廃熱回収あるいは、焼却灰が有効利用された場合は再資源化に含みます。工場廃棄物リサイクル率99.5%以上をもってゼロエミッション達成としています。

〈製造会社〉

- 生産効率の向上を図り、工程で発生するロスの削減や生産の合理化等により、廃棄物となる原材料や製品を削減しています。
- 工場に納入される原材料はその特性に応じてさまざまな包材で梱包されています。Glicoグループは取引先と協力して、原材料を輸送する際の容器のリユース化や、過剰包装の廃止に取り組み、原材料の品質を確保しながら梱包材を削減する努力をしています。

〈ゼロエミッション達成工場〉

- 仙台グリコ
- 東北グリコ乳業
- 関東グリコ
- 那須グリコ乳業
- グリコ千葉アイスクリーム
- 東京グリコ乳業
- 岐阜グリコ乳業
- 三重グリコ
- 関西グリコ大阪ファクトリー
- 関西グリコ神戸ファクトリー
- グリコ兵庫アイスクリーム
- グリコアイクレオ
- 鳥取グリコ
- 佐賀グリコ乳業

〈本社〉(事務部門・研究部門)

現在は、ゼロエミッションを継続しながら、廃棄物の絶対量の削減に取り組んでいます。

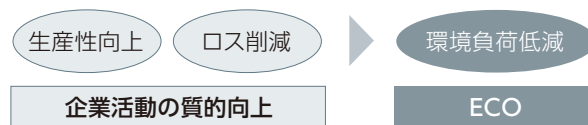
- 詳細な分別基準に基づく分別ステーションの設置により、「ゴミ」を捨てるという意識から、再資源化の分別をする意識に変わりました。

〈営業部門〉

江崎グリコの営業部門で発生する廃棄商品については、2002年度から再資源化に取り組み、飼料や肥料へのリサイクルを進めています。スーパーマーケット等で使用する販売促進品も廃棄量が多いため、計画的な使用計画を立て、資源を無駄にすることがないように取り組んでいます。

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上が環境負荷低減に繋がるという考えのもと、事業活動の生産性向上やロス削減等に取り組んでいます。



〈事例〉製造会社におけるTPM活動

製造ラインが安定することで高品質、低コストな生産体制や安全性の高い職場環境を実現するため、TPM (Total Productive Maintenance) 活動を行っています。

Glicoグループの製造会社等が集まり、TPM活動の報告会を実施し、年1回優秀事例を表彰しています。



〈事例〉時間外労働の削減

業務の生産性をあげることで、時間外労働の削減に努めています。この取り組みにより、時間外のエネルギー使用を削減することができま

〈事例〉ペーパーレス宣言

業務効率化を目的とし、ペーパーレスに取り組んでいます。同時に、資源の有効活用につながります。

ペーパーレス宣言

Glicoグループはペーパーレス化を実現します。

組織・個人のワークスタイルの変革により、ペーパーレス化を実現し、業務の効率化と生産性の向上を図ります。

ペーパーレス三原則

1.「紙」を使用する業務プロセスをやめる

紙を介さないで業務を遂行していく業務フローを築き、実践する

2.「紙」の出力(印刷・コピー)をやめる

「参照のため」「しかり資料チェック」「紙の配布」など、紙を出力する習慣からしない習慣へ

3.「紙」の保管をやめる

書類の個人所有の原則禁止、電子データ化を行う

2018年1月

環境教育や安全取り組み

環境教育

従業員が公私を通じて環境への意識を高め、環境保全活動に積極的に取り組むように、Eラーニングのシステムを活用し、教育内容の理解度を確保するためのテストを実施するなど、定期的に環境教育を行っています。

また、ISO14001に関するより専門的な知識を習得し、内部監査員として活動するメンバーへの養成講座も開催しています。

〈環境ISO関連教育研修コース〉

定期環境教育の他、ISO14001取り組みに関するさまざまなEラーニングコースを提供します。



安全への取り組み

環境負荷低減に向けた課題解決が従業員の就業環境向上にもつながると考え、労働安全衛生に関する取り組みにおいても環境マネジメント体制を活用しています。

- 〈事例〉
- 業務効率化による時間外労働の削減
 - 安全運転とエコドライブ—交通事故削減
 - 製造設備への巻き込まれ防止対策の強化

環境コミュニケーションの推進

コミュニケーションの推進

全てのステークホルダーに対し、環境についても適切なコミュニケーションを行っています。

- ホームページでの情報開示
- 委託先・取引先への環境取り組みへの協力をお願い
- 地域の方からのご指摘等の受付
- 行政機関への届出や報告
- 学生の職場体験の受け入れ

行政指導・ご指摘 等

Glicoグループでは、2018年度において環境に関する行政処分や訴訟等はありませんでしたが、東京グリコ乳業において、下水水質基準超過の注意書を受け、原因の特定と改善を実施しました。

また、事業所周辺地域の方からのご指摘をいただくことがありました。いずれも解決済みですが、再発防止に向けて管理を徹底しています。

表彰・認定 等

Glicoグループでは、複数の事業所所在の行政機関から環境に関する表彰や認定をいただいています。

関東グリコは、埼玉県より地球温暖化対策の推進が優れた「トップレベル事業所」として認定されました。(2018年4月)



江崎グリコでは、エコパウチを使用したガムの販売代金の一部から公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付しています。

この実績が評価され、農林水産大臣感謝状をいただきました。(2018年7月)





お客様とともに

**私たちは、世界のお客様の信頼に応える安全・安心な商品・サービスと
有益な情報を提供し、ココロとカラダの健康に貢献します**

安全で確かな品質の商品をお届けするため、商品の設計から製造、販売など、商品がお客様の手に渡るまで、全てのステージにおける品質保証体制を構築しています。また、世界的な品質保証システムであるFSSC22000認証を取得しています。さらに、より良い商品・サービスを提供するために、お客様の声を関連部門で共有し、改善・改良に繋げています。

品質マネジメント

食品安全方針

私たちは、お客様の安全・安心を最優先にして、すべての製品とサービスを提供します。

1. 私たちは、お客様の健康に直接関わる食品を扱っています。食品に関連するすべての法規を遵守します。
2. 食品安全方針を達成するために食品安全目標を設定し、その達成状況に応じた目標の見直しを行います。
3. 製品の安全性確保のため、計画、実行、チェックの機能が有効に働く体制・運用方法を絶えず追求します。また、その技術開発にも取り組みます。
4. お客様のお申し出には、迅速に、かつ誠意をもって対応します。
5. 製品の安全性に問題が生じた場合、原因追求・再発防止策を徹底して行います。
6. 世界標準に対応する品質保証レベルの向上を図ります。

以上の項目をGlicoグループ従業員が理解し、実行します。
2003年10月

Glicoグループの品質改善の取り組み

製造会社ごとに内部監査チームを設置し、製品や製造環境による品質リスクの要因を抽出し、改善に繋げています。

Glicoグループの品質保証

Glicoグループは、「お客様の安全・安心を最優先にして、すべての製品とサービスを提供」することを食品安全方針に掲げ、品質保証への取り組みを展開しています。その骨格をなすのが、食品安全方針を頂点にグループ各社の基準へと末広がり体系づけられる品質文書です。

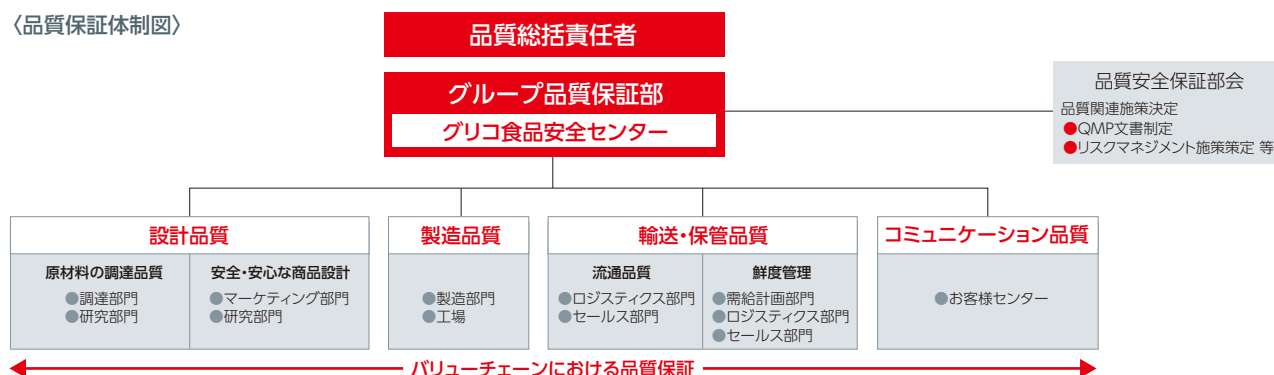
江崎グリコでは、品質保証に関わる全てを監督する品質総括責任者を置き、バリューチェーンに渡って、QMP (Quality Management Practice) 文書に定めた基準に基づく品質マネジメント活動を継続することで、品質保証を徹底しています。

〈品質文書体系〉

品質管理を徹底するため、方針→規格要求事項→グループ共通基準→グループ各社基準とブレイクダウンする形で品質保証に関わるあらゆる事項を明文化。全ての現場でこれらに則った活動を展開し、その過程と結果を記録しています。



〈品質保証体制図〉



FSSC22000に基づく食品安全マネジメント

FSSC22000(食品安全マネジメントシステムの国際規格、GFSI承認)認証を国内外21の製造会社において取得しています。

〈主なマネジメントの内容〉

①QMP文書に基づく品質管理 ②監査 ③品質向上のための啓発

品質向上のための啓発活動

グループ品質保証部が中心となって、入社時研修や、部門別研修、役職別研修を開催し、品質に対する知識・意識向上とマネジメント定着を図っています。



品質集合研修



品質教育

また、「失敗から学ぶ資料室」を開設し、過去の商品回収事例等から得た教訓を学ぶ場としています。



失敗から学ぶ資料室

設計品質

原材料の選定

トータルな品質保証システムについて精査し、基準に合致した品質を確保できる取引先を選定。事前に原料の詳細を記述し安全性を保証する「原料納入規格書」を入手して、法例に合致していることを確認するなど、安全な原材料の供給が受けられる体制を整備しています。

また、グリコ食品安全センターにおいて、残留農薬、遺伝子組み換え作物、アレルギー物質等のチェック体制も整備されています。



アレルゲン検査



安全性分析

安全・安心な商品設計

企画・設計段階で設計品質レビューを行い、商品特性によって異なる安全・安心へのニーズに応じて品質を高く維持する活動を展開し、QMP文書に定めた基準を満たしたものが製造段階へと進みます。

原材料やキャンペーン等の表示が法令に合致していることを詳細にチェックするとともに、お客様にとってわかりやすい親切な設計となるよう十分な注意を払っています。

● 品質の検査

加速試験など市場保存性を中心とする設計品質のチェックを実施しています。

製造段階においても、出荷前に設計品質どおりに製造されていることを確認しています。

〈設計品質チェック項目例〉

- 風味・食感
- 微生物
- 水分値・水分活性
- 外観
- 油脂の酸化(光・酸素)
- 輸送強度 等
- 温度耐性(溶け・ブルーム)



微生物検査



官能評価

● 防災時にも役立つ長期保存食品の開発



ビスコ保存缶



常備用カレー職人



アイクレオ
赤ちゃんミルク



製造品質

原材料調達・納入

製造会社単位でFSSC22000に基づき定めた食品安全マニュアルを順守。原材料受け入れ時には、温度、表示、外観等を厳重に確認。さらに、使用直前にも全ての原材料を確認のうえ、使用します。

原材料にはバーコード付与等を行いながら、使用履歴を追跡できる仕組みを構築しています。



残留農薬分析



原材料受け入れ時の確認・記録

製造施設・設備管理

品質基準に則り、衛生、温度、湿度、入数過不足、包装・印刷不良等の管理や異物混入防止等に努めています。生産設備に起因する品質トラブルの防止のため「機械設計基準書」を設け、設備導入時に基準に合致していることを入念にチェックしています。

輸送・保管品質

輸送品質

物流事業者とともに、トレーサビリティの確保、トラブル改善、フードディフェンス等に取り組み、商品の保護に努めています。

保管品質

保管中も同様の手法で商品の保護に努めるとともに、適切な在庫管理により、基準適合商品だけを市場に出荷しています。

販売品質

販売品質管理

お客様に規格通りの商品をお届けするため、販売店と協力して、適切な保管・取り扱いを行っています。

自動販売機の品質管理

セブンティーンアイスの自動販売機においても、商品そのものの管理はもちろんのこと、清潔な自動販売機の維持のため、卸店と協働でクリーンアップに取り組んでいます。

また、商品の見やすさや、ボタンの押しやすさを改良した性能の高い自動販売機の導入も推進しています。

コミュニケーション品質

お客様視点の課題解決

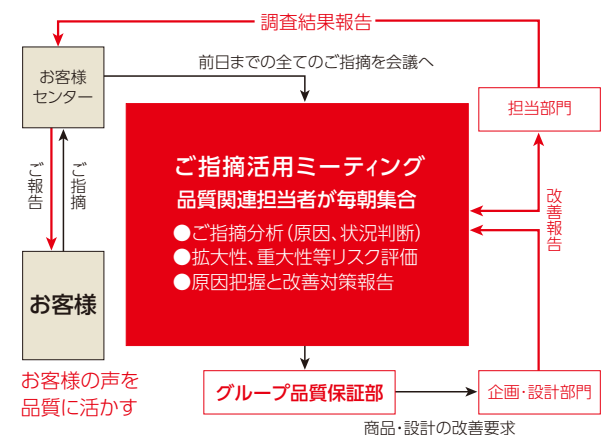
乳児用ミルクをはじめ、乳幼児や児童も対象としたさまざまな商品を販売しています。このため、品質に対するお客様の要求はハイレベルです。お客様センターでは、お客様に寄り添い共感して、困りごとを全力で解決することを何よりも大切にしています。

● お客様センター

年間約5万件の電話、メール、手紙でのお申し出をいただいています。ご相談には、迅速、丁寧、かつ誠意をもって対応し、正確な情報を提供しています。

● ご指摘活用ミーティング

毎朝、品質保証部門、製造部門等の品質関係担当者が集まり、前日にお客様センターに寄せられたご指摘を精査しています。精査した内容は、製造会社、企画部門、研究部門にフィードバックし、迅速な対応を行っています。



お客様対応品質の向上

JIS Q 10002:2005 (品質マネジメント-顧客満足-組織における苦情対応のための指針) への自己適合宣言を行い、お客様対応品質の向上のため日々改善を重ねています。また、電話対応の研修を実施するとともに、乳幼児へのミルクの飲ませ方、加工食品の調理方法、スポーツサプリメントの摂取方法等多岐にわたるお問い合わせに備え、多様な知識の習得にも努めています。

〈知識向上のためにコミュニケーターが所有する資格例〉

- 消費生活アドバイザー
- 栄養士
- 食品表示検定(中級)
- 子育てアドバイザー
- 電話応対技能検定(3級)
- NR・サプリメントアドバイザー

● お客様センター体験研修

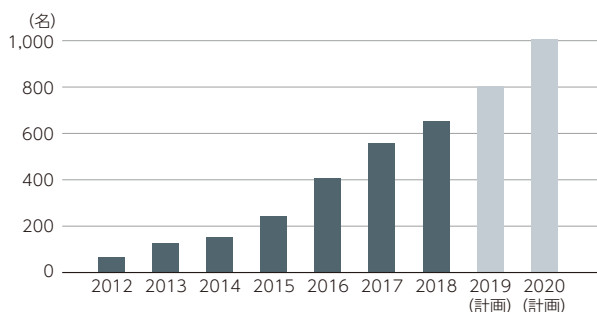
従業員に、「お客様と話して「心が動く・感じる」時」を提供し、お客様志向を醸成する活動を展開しています。オペレーターとしてお客様のお申し出に対応する「お客様センター体験研修」もそのひとつです。実際に受け応えることで、真にお客様の気持

ちに寄り添うことの大切さ等を体感し、お客様視点で品質を考える意識の向上に努めています。2018年度までの受講者総数は680名。今後、受講者を増やしていく計画です。



お客様センター
体験研修
(受電研修)

〈お客様センター体験受講者数推移〉(累計)



● 会員サイト「グリコクラブ」ファンミーティング

お客様と直接触れ合う機会が少ない製造部門等の従業員が、「グリコクラブ」会員対象のファンミーティングに参加することにより、“お客様と話して「心が動く・感じる」時”を創出しています。

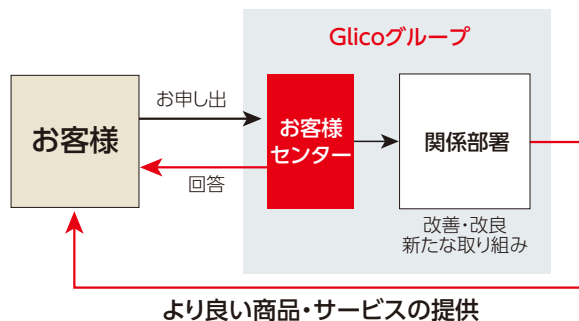


「グリコクラブ」
ファンミーティング

● 商品・サービスの改善・改良

お客様からいただいたお申し出を社内でも共有し、商品・サービスの改善に活かしています。お客様の声がかきかけとなって新たな取り組みが生まれています。

〈お客様の声の活用〉



● お客様の声を活かした改善

お客様からいただいたお申し出を活かして商品を改善した事例の一部を、江崎グリコのホームページ(<https://www.glico.com/jp/customer/product/>)に掲載しています。素早い対応により商品を改善できたケースでは喜びのお声を返してくださるお客様もあり、実りあるコミュニケーションが、担当者の大きな励みともなっています。

〈事例〉セブンティーンアイス



「乳アレルギーで自動販売機のアイスが食べられない」という声にお応えし、アレルギー物質を含まない新商品を開発した事例。

〈事例〉プレミアム熟カレー



「パッケージを捨ててトレイだけで保存すると賞味期限がわからない」という声にお応えし、1皿ずつのトレイに賞味期限印字を開始した事例。

■ 情報提供品質の向上

商品に関する情報をお伝えするために最も確かな媒体である商品パッケージの表示を、できるだけわかりやすいものとするに努めています。商品開発時に十分な検討を行うことはもちろん、発売後も常にお客様の声に耳を傾け、迅速に改善を図っています。

● わかりやすい商品表示

法令や業界基準に加え社内でも基準を設けて、お客様の立場にたった安心、適切でわかりやすい表示に努めています。



取引先とともに

**私たちは、法令・社会規範を遵守し、
高い倫理観をもって公正・公平な事業活動を推進します**

Glicoグループはお客様の健康に直接に関わる食品を扱う企業として、ビジネスパートナーである取引先（サプライヤー）と一体となってサプライチェーン全体で社会的な責任を果たすことが使命だと考えています。そのため自社が直接に関わる範囲のみならず、取引先に対しても法令遵守と倫理的行動を求め、人権・労働・環境に配慮した企業活動を行うことを徹底しています。「公正取引基本方針」「購買活動の基本方針」に基づいて取引先の皆さまとの公正・公平な取引を実践し、信頼関係を築くことで、環境・社会に配慮した調達活動を推進しています。

取引先に関する基本方針

グローバルに事業活動を行うGlicoグループでは、GlicoグループのCSRの考え方にに基づき、「バリューチェーンを通じて、人権尊重・腐敗防止・競争法等を遵守することにより、付加価値の高い事業活動を推進する」ことを目標に掲げています。それを実現するため、ISO26000、および国連グローバル・コンパクトをもとにGlicoグループが公正取引において配慮すべき課題を明確にし、「公正取引基本方針」を策定し、2019年4月に発効しました。

公正取引基本方針

私たちは、当社グループのみならず、バリューチェーンにおいて、各国法令を遵守するとともに以下事項の実現を目指すことにより、高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動を推進します。

- ①労働における基本的原則及び権利に反する「強制労働」及び「児童労働」、「雇用及び職業における差別」を排除・撤廃すること。
- ②公務員や政治家はもちろんのこと、ビジネスパートナーとの適切な関係を保ち、また、役職員による利益相反取引を避ける等、あらゆる形態での腐敗を防止すること。
- ③カルテル、談合等の自由な競争を阻害するあらゆる行為に関与せず、お客様へ安心・安全で質の高い商品やサービスを提供することを第一に、市場にて適切な競争を行うこと。
- ④資産の有形・無形を問わず、第三者が保有する正当な財産権を尊重した活動を行うこと。
- ⑤上記各項目につき、関係者との間で互いに意識を向上させ、以って、問題発生の際未然防止と顕在化した問題への迅速で適切な対応を実現すること。

購買活動の基本方針

弊社では企業理念の実践に向け、企業コンプライアンスに基づいた「Glicoグループ行動規範」を定めています。「江崎グリコ株式会社グループ調達部購買基本方針」は、その理念をお取引先との間で共有し、健全な取引関係の構築を目的とした調達の基本方針を制定すると共に、購買担当がとるべき行動を具体的に示し、お取引先と不適切な関係に陥らないよう、購買の姿勢を具体的に定めています。

〈購買の方針〉

- 1.購買業務に関するそれぞれの国の関係法令、及びGlicoグループ行動規範をはじめとする社内規定に則った活動を行います。
- 2.コスト、品質、納期など取引における諸要素を適切に検討し、経済的合理性に基づいた購買意思決定を行います。
- 3.お取引先とのビジネスパートナーシップの強化を図ると共に、公正、公平で透明な取引に努めます。
- 4.お取引先の経営状況、技術力、営業力など、企業姿勢を定期的に評価させていただき、企業の社会的責任を尊重した取引を進めます。
- 5.倫理的自覚を持った取引に努めます。
- 6.グリーン購買など環境に配慮した取引に努めます。

〈調達担当者の姿勢〉

- 1.法規や規制、またGlicoグループ行動規範を逸脱する取引を行いません。
- 2.ご提供いただく原材料、物品やサービスを厳格に評価し、コスト、品質、安全等の競争力を優先した取引を行います。
- 3.お取引先との健全な関係の保持に努めます。また、立場を濫用した不当な値引きやサービスなどの強制を行うことはありません。
- 4.お取引先と個人的な利害関係を持ちません。社会通念上の範囲を超えた供応などの個人的利益をお受けすることはありません。
- 5.信頼のおけるお取引先との関係構築に努め、社会的規範に反する企業との取引は行いません。

公正・公平な取引の徹底

Glicoグループのパートナーとして共に歩んでいただく取引先に対し、Glicoグループが目指す高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動に賛同していただくための条件を取り決めた「取引基本契約書」を締結し、これに基づく取引を行っています。

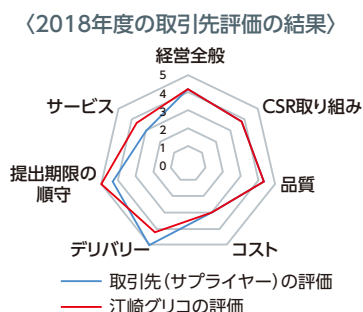
Glicoグループでは、公正な評価・選定や公平な競争機会を基盤に、国内外の法令に則った公正・公平な取引を行うとともに、取引先との信頼関係の強化に努めています。

● 公正・公平な取引に対する取引先の評価

江崎グリコでは、「購買活動の基本方針」に沿って公正・公平な取引が行われているかを確認・検証するために、年1回、調達部門による自己評価、および取引先による調達部門への評価を実施しています。

● CSRを重視した取引先の選定

新規取引先の選定にあたっては、経営、CSRへの取り組み、品質、コスト、納期、サービス等について評価し、最適な取引先を選定しています。また、すでに取引している取引先に対しても、年1回、同項目について取引先およびGlicoグループが公正・公平に評価を行っています。2018年度は、CSRへの取り組みに注力する企業を優先的に選定するため、調査票にCSRに関する評価項目を追加しました。また、改善指導対象と評価した企業に対しては弱点を強化しパートナーとして育成することにも取り組んでいます。



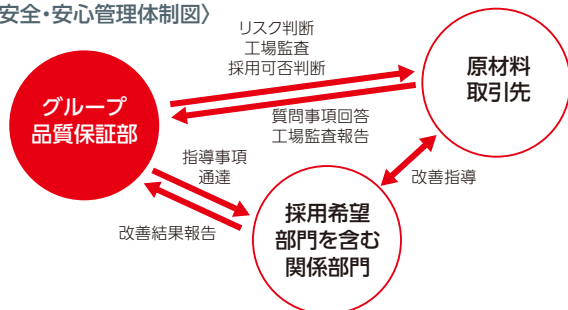
● 贈収賄防止の取り組み

「公正取引基本方針」に基づいて公人・役員・取引相手との金品の授受による不適切な取引や癒着を排除するため、グローバルな贈収賄防止についてのグループ内ルールを策定し、2019年3月より各国のグループ会社に順次導入しています。シンガポール、タイ、インドネシア、中国のグループ会社で研修会を実施したのを皮切りに、海外の重要拠点で順次研修を実施していく予定です。

■ 安全・安心管理の徹底

グループ品質保証部が中心となり、取引を希望する部門と取引先と連携し、サプライチェーン全体で安全・安心な調達を実現する体制を整えています。

〈安全・安心管理体制図〉



● 取引先と管理システムの共有

「製品情報システム」や「原料納入規格書システム」といった品質管理に関わるシステムの表記統一を図るとともに、今後は、「品質管理プログラム」に統合し、一貫した品質管理体制を構築することを目指しています。

● サプライヤー品質会議の開催

年1回、「サプライヤー品質会議」を開催し、取引先の取り組みを評価するとともに、今後の取り組みについて討議しています。

■ コンプライアンス

Glicoグループは自社はもちろん、取引先に対しても事業活動を行っている国・地域の法令遵守と倫理的行動を徹底しています。

● 独禁法の遵守

国内においては、「独禁法遵守ガイドライン」を策定し、国内グループの関連部門で独禁法教育を実施しており、調達部等を通じて取引先とも遵法活動を求めています。

● 働き方改革にむけて

2019年3月、江崎グリコおよびグリコ栄養食品の取引先（原材料、生産、物流関係等）約320社に対し、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」への取り組み状況、同法が取引に与える影響等についてのアンケートを行い、2019年4月からの施行に向けて、取引先とともに取り組みの準備を始めました。

■ CSRに配慮した調達

Glicoグループでは、環境や人権に配慮して事業活動を行う取引先からの調達を推進しています。また、取引先と協力し、トレーサビリティのデジタル化に取り組んでいます。2019年4月までに取引先から納品される原材料へのバーコードラベルの貼付を必須化しました。今後は2022年を目標にICタグによるRFID（自動認識）化を推進していきます。

● 環境や人権に配慮した原材料の調達

安全・安心はもちろん、環境や人権にも配慮した調達の一環として、産地が明確な「トレーサブルカカオ豆」の調達を推進しています。2020年までにGlicoグループが調達しているアフリカ産カカオ豆を全てトレーサブルカカオ豆に切り替える予定です。また2020年までに、Glicoグループの基幹ブランド商品に使用されるパーム油をRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）認証パーム油に切り替える予定です。

● 環境対応型包材の導入

商品の「カフェオーレ」についているプラスチック製ストローを廃止した他、「セブentyーンアイス」のスティックの一部をバイオマスプラスチックに置換するなど、環境対応型包材の導入を進めています。



「セブentyーンアイス」のスティックの一部をバイオマスプラスチック化

■ 取引先とのコミュニケーション

Glicoグループでは、取引先への訪問活動や定期的な取引先説明会を実施し、Glicoグループの「SCM（サプライチェーンマネジメント）方針」の周知・徹底を図るとともに、コミュニケーションを通じて取引先とのパートナーシップを強化しています。



江崎グリコ「お取引先説明会」の様子



従業員とともに

私たちは、基本的人権を尊重し、
多様な人が活躍できる環境づくりに取り組みます

Glicoグループは、最大の経営資源を「人」だと考え、意欲にあふれる人財の育成とともに、個人の主体性・創造性を引き出す企業風土や制度の充実に努めています。人権を尊重し、ダイバーシティ&インクルージョンを重視するとともに、年齢、性別、人種、宗教、障がいの有無等に関わらず、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。また職場の安全衛生の維持向上にも力を注いでいます。さらに従業員の健康増進のために、健康経営の推進も行っています。

人事に関する基本的方針

企業の持続的発展のためには、社会から支持・信頼・尊敬される企業であること、そして従業員が誇りを持てる会社であることが必要です。そうした企業発展の源泉となる最大の経営資源は「人」とGlicoは考えています。個々人の能力開発・育成を図り、意欲と能力にあふれる人財が束となってその能力を発揮して変革を推し進めること、またそうした変革を推進する人財が次々と育つ企業風土を醸成することを基本方針として、企業の発展と従業員の幸福の実現を目指しています。

Glicoスピリットを体現するための人と組織



Glicoコアバリュー

Glicoスピリットを体現するために
必要な価値観

Glicoスピリットの原点である
「Glico七訓」の精神が含まれている

〔Glico七訓〕

- 創意工夫
- 奉仕一貫
- 勤儉力行
- 協同一致
- 質実剛健
- 積極果敢
- 不屈邁進

Glicoコアバリュー

- Growth**
 - 現状に満足することなく、常に向上心を持って組織及び自己の**成長**に取り組む
- Leadership**
 - 職位、職責を問わず、困難な局面でも**リーダーシップ**を発揮し、最後までやり遂げる
- Innovation**
 - もっと面白いこと、新しいこと、愉快なことを求め、大胆に行動し、創造的かつ**革新**的なアイデアで顧客価値提供に取り組む
- Collaboration**
 - 自己のこと、自部門のことだけでなく、広い視野で周囲との**協働**を通じて、新たなシナジーを生み出す
- Open mind**
 - あらゆる人に**心を開き**、多様な価値観・意見に耳を傾け、ビジネスパートナーとして**個を尊重**する

働き方改革

ワークも、ライフも

Glicoグループでは「ワーク(仕事)」と「ライフ(仕事以外の生活)」とを分けて考えません。ライフにはワークも含まれていると広く考え、両者の質を上げる取り組みを進めています。具体的にはテレワーク制度やフレックスタイム制度、時間単位年休制度等を導入している他、業務効率化による残業時間の削減や年次有給休暇の取得促進にも全社を挙げて取り組んでいます。

● 年次有給休暇

江崎グリコでは、土曜・日曜・祝日が休みの完全週休2日制とするとともに、年間で最大20日の年次有給休暇を付与(前年未使用分は繰り越し分として上乗せ)しています。2018年度の年次有給休暇の取得率は70%を超えました。

〈年次有給休暇取得率〉

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
58.3%	62.6%	69.9%	70.6%

● テレワーク制度

江崎グリコでは、従業員の自律的・効率的な働き方を促進し、業務効率化と生産性の向上を目的として、自宅など、会社以外の場所で勤務できる制度を整えています。2018年1月の導入時からの1年間で、対象となる従業員のうち、月1回以上テレワーク制度を利用した割合は平均28.1%でした。

ダイバーシティ&インクルージョン

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

Glicoグループは、ダイバーシティ(多様な属性の人の活躍)を推進しています。またインクルージョンとして年齢、性別、人種、宗教、障がいの有無等に関わらず適材適所で活躍するための施策を強化しています。

● 社内イントラネット

Glicoグローバルポータルネットの構築

Glicoグループでは、国籍の違うグループ従業員全員が一体となり、目標に向かって日々の業務に取り組むことが重要と考え、インターナショナルコミュニケーションを推進しています。

そのため、社内イントラネットを事業展開国に合わせて多言語化した「Glicoグローバルポータルネット」を構築し、経営層からのメッセージや創業のDNA等、グループ従業員が理解すべき情報を発信しています。



女性の活躍推進

Glicoグループでは、企業価値向上の観点から、女性活躍推進が重要と考えています。具体的には、女性の役員・管理職への登用を促進するほか、女性従業員のキャリア開発研修や上司を対象としたダイバーシティマネジメント研修等を実施しています。さらに、子育て支援に関する各種制度を充実させています。

● 「Co育て」休暇

従業員が「Co育て」を起点に自らライフデザインを行い、多様な人財が活躍できる企業風土を目指しています。「Co育て」とは、Glicoグループが提唱する子育ての考え方で、家族のコミュニケーションを育み、父親・母親が協力して育児を行うことを目指すものです。

2019年3月、それまでの妊娠・育児有給休暇を再構築し、新たに「Co育て休暇」を導入しました。本人または配偶者が妊娠中である従業員、および2歳未満の子を養育する従業員には、子1人につき5日間の有給休暇の取得を追加で認めています。その他、新たに不妊治療や妊活、子・孫の看護や検診、学校行事への参加等を理由にした有給休暇の取得を認めました。さらに2019年4月から男性の育児休業取得の義務化も新たにスタートさせました。



「Co育て」紹介Webサイト

● 粉ミルク費用補助

江崎グリコは、満1歳までの子を養育する従業員を対象に、乳児用粉ミルクの購入代金を一部補助する制度を設けています。

● 子の看護休暇

江崎グリコは、小学校3年生までの子を持つ従業員を対象に、負傷したり、疾病にかかった子の世話をするため、あるいは子の疾病予防のために年次有給休暇とは別に休暇の取得を認めています。子1人あたり1年間に5日まで、子が2人以上の場合は10日まで取得できます。

● 従業員向け保育施設「こどもぴあ保育園 神戸」

子育て世代の従業員が安心して働ける職場環境を整備する一環として、2019年4月、製造会社の関西グリコ神戸ファクトリーの敷地内に従業員向け保育施設「こどもぴあ保育園 神戸」を開園しました。276㎡の敷地内には171㎡の園庭を備え、子どもが遊びに専念できるさまざまな運動プログラムを用意しています。工場の操業に合わせて、土曜・日曜・祝日も開園しています。



ふれあうココロ、いきるチカラ
こどもぴあ保育園
KOBE



● 妊娠、出産、育児に関する諸制度

- C〇育て休暇
- 妊婦の時差勤務制度
- 通院時間の保障
- 妊娠中面談
- 育児休業前面談
- 産前産後休暇（出産休暇）
- 出産祝い金
- 出産育児一時金
- 産前産後休業中の社会保険料の免除
- 出産に伴い高額な保険診療が必要な場合の補助
- 家族手当
- 産後復職前面談
- 育児休業
- 粉ミルク費用補助
- 育児休業給付金
- 育児短時間勤務
- 子の看護休暇
- 所定外労働・休日出勤の免除・制限、深夜業の制限
- 勤務地特約制度

● 管理職を対象とした研修

組織全体でC〇育て推進のため管理職を対象とした研修を実施しています。そのひとつとして2019年1月29日、NPO法人ファザリング・ジャパン代表の安藤 哲也氏による講演会を開催しました。約140名の従業員が参加し、父親が育児に参画する意義や職場環境づくりにおける上司のサポートの重要性について学びました。



管理職を対象とした研修

障がい者雇用

障がい者雇用について、2018年度は、江崎グリコおよび国内のグループ全体の平均雇用率では目標を達成しました。2019年度は、未達成のグループ会社でも業務の精査や適材適所の採用等を実施し、2020年度末までに国内の全てのグループ会社で法定雇用率を達成することを目指しています。

● 多様な人材が適材適所で活躍できるための施策

Glicoグループでは、多様な人材が適材適所で活躍するために様々な施策を行っています。2018年度においては、障がいを持つ人がその障がいの種類に関わらず活躍できる職場を目指し、2018年10月1日、新たな職場を開設しました。この職場では輸出品のラベル貼り等を行い、外部委託してきた業務の内製化を図りました。「やりがいを感じる」「必要とされていることを実感できる」体制づくりを進めるとともに、作業場はもちろん休憩スペースにも障がいの種類に関わらず働きやすい環境を整えています。今後は障がい者がハンディとならない職務の開発や、長期雇用を支援する体制と仕組みづくりにも取り組んでいきます。

人財育成

人財開発のための施策

Glicoグループでは、人財開発、人財育成を経営の最重要課題として全社的に取り組んでいます。経営観や人生観、使命感等

の「軸」を持った人が「智恵」を学び続け、「実践」を重ねることでさまざまな経営課題の解決、改革を推進できるという考えのもと、Glicoコアバリューに基づいた「軸」「智恵」「実践」を研修体系に反映したカリキュラムを実施しています。

〈人財育成体系図〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全員	TOEIC	語学教室	通信教育	OJTリーダー研修	メンター研修			TOEIC	語学教室	通信教育	OJTリーダー研修	メンター研修
管理職	変革リーダー研修											
中堅	経営推進職群任用者個別プログラム											
			中堅選抜研修							合同マネジメント研修	人事研修	
			ヒューマンアセスメント研修試験									
若手	新卒2年目研修	新入社員研修						新卒3年目研修	新卒2年目研修	新入社員研修		
	希望制	全員参加	指名	選抜	昇格関連							

人権の尊重

人権の尊重

Glicoグループでは、個人の尊厳と権利は平等であり、年齢、性別、人種等あらゆる差別をしないことを行動規範に明記し、人権尊重の仕組みの構築を進めています。

● 従業員の人権を守るための取り組み

Glicoグループでは、健全な就業環境を維持するため、法令違反や社内規程違反、ハラスメント等を発見した場合、全役員・従業員が通報し、また会社に伝えられる窓口として「Glicoコンプライアンスホットライン」を設けています。通報に対しては、経営陣から独立した調査機関が調査・対応します。通報によって通報者が不利益な扱いを受けることは一切ありません。もし調査機関のメンバーに通報関係者が含まれている場合は、通報内容をそのメンバーに伝えない体制も整備しています。（P.36参照）

労働安全衛生

労働災害の防止

Glicoグループの製造現場では、安全・衛生活動を徹底し、安全・安心な職場づくりに努めています。朝礼等での安全呼称、KY活動（危険予知活動）、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）活動を通じて従業員の怪我を防止し、安全で明るく健康的な職場を目指しています。2017年度、2018年度はいずれも生命に関わる重大事故は発生していません。



地域社会とともに

**私たちは、良き企業市民としての役割を自覚し、
地域の人々と共生し、コミュニティの持続的な発展に貢献します**

Glicoグループは事業活動を通じて、人々の健康増進への貢献と、経済・福祉・文化の発展に努めています。さらに、事業活動で培った知見や技術を活用した教育支援、経済・福祉・文化面の社会活動を通じて、地域社会の課題解決を目指しています。実施にあたっては、地域社会との対話により課題やニーズを適切に把握し、地域社会の要請や期待に応えるよう積極的に取り組んでいます。

教育支援

Glicoグループ独自の教育支援

Glicoグループでは、グループが持つさまざまな資源を活用し、独自の教育支援活動を行っています。

● 工場見学施設「グリコピア」の開設

創業者 江崎 利一の「食えることと遊ぶことは子どもの二大天職である」という企業哲学を基に、訪れた方々がGlicoグループの商品や食文化について楽しく学べる工場見学施設として、「グリコピア神戸」(兵庫県)、「グリコピア・イースト」(埼玉県)、「グリコピアCHIBA」(千葉県)を開設しています。

各施設では、併設された工場で製造しているポッキーやブリッツ、パピコやセブンティーンアイスの製造工程の見学や、デジタル空間でオリジナルのお菓子づくりやクイズに挑戦する体験など、地域のお客様をはじめ、多くの方々に「見る・楽しむ・学ぶ」を体感していただいています。



グリコピア神戸



グリコピアCHIBA

● 「グリコピア」見学連携プログラム

「グリコピア」では、地域行政と連携した教育プログラムも実施しています。「グリコピア・イースト」では、埼玉県 環境部 資源循環推進局が主催する「夏休み3R 環境講座」の開催に協力しました。本イベントは毎年の恒例行事で、2018年度で6回目の開催となります。埼玉県内の親子ペア約80名を招待し、ポッキーやブリッツの工場見学の後、工場における環境取り組みとして、廃棄商品を家畜の飼料として活用している事例や、包装材料をできるだけコンパクトにしてゴミを減らす工夫をすること等の講演を行いました。

工場見学や講演を実施することで、参加の方々に、Glicoグ

ループの歴史や商品、環境取り組みを理解していただくとともに、地域の環境問題に関する意識を高めていただくことができました。



ポッキーが製造されている様子



夏休み3R 環境講座

● 「GLICODE® (グリコード)」を活用したプログラミング授業

2020年度から小学校の新学習指導要領が全面实施され、論理的思考力や問題解決能力の育成の観点から、小学校でのプログラミング教育が義務化されます。創業以来、子どもたちの健やかな成長を願ってきたGlicoグループは、子どもたちのプログラミング教育の力になるため、おいしいお菓子を食べながら楽しく遊び、学ぶことができるプログラミング教材「GLICODE® (グリコード)」を開発しました。

本プログラミング教材は、総務省の推進する2016年度「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業に選定され、これまで、全国の小学校の先生との協業により「GLICODE®」を活用した授業を全国20カ所以上の小学校で実施していただいています。また、従業員による「GLICODE®」体験会の開催も実施しています。2018年度は兵庫県芦屋市「あしやキッズスクエア(放課後子供教室事業)」と協働した学童教室における開催や、児童養護施設の子どもたちをグリコピアに招待して体験会を開催するなど、計15回実施しました。



従業員が講師を行う「GLICODE®」授業の様子





就業体験による次世代育成

Glicoグループでは、年齢やコース別にさまざまな就業体験活動プログラムを提供しています。プログラムを通じて事業だけでなく、仕事・職業に対する関心を喚起し、地域の次世代を担う子どもたちの育成に携わっています。

● とっとり未来キッズプロジェクト

「働くことの素晴らしさや鳥取県内の企業の魅力を再発見しよう」というBSS山陰放送主催のプロジェクトに鳥取グリコが参画し、2018年8月8日、県下の小学5・6年生5名が、鳥取グリコにおいて職業体験を行いました。子どもたちは、ハヤシライスのルウの生産を見学した後、品質検査や設備の稼働状態の点検等の仕事を体験してもらいました。見学や体験を通じて、普段見る商品の裏側の仕事について、子どもたちに学んでもらいました。



品質検査体験



鳥取グリコ概要説明

健康づくりに寄与する活動

「おいしさと健康」を企業理念に掲げる食品メーカーとして、Glicoグループが持つ資源の他、外部の知見も取り入れ、健康づくりに寄与するさまざまな活動を展開しています。

● キッズスポーツ教室

「未来ある子どもたちを応援したい」というレーシングドライバー佐藤 琢磨選手の考えに賛同し、全国の子どもたちがカートを通じて触れ合うことを目的とした「TAKUMA KIDS KART

佐藤 琢磨選手と
TAKUMA KIDS KART
ACADEMYの子どもたちレーシングカートに乗る
TAKUMA KIDS KART
ACADEMYの子どもたち

CHALLENGE」をサポートしています。

5年目を迎えた2018年は、全国16カ所でタイムトライアルレースによる予選大会を開催した後、勝ち抜いた上位10名が招かれ、「TAKUMA KIDS KART ACADEMY」で佐藤 琢磨選手本人による直接指導が行われました。

今後さまざまなアスリートと子どもたちの健やかなカラダづくりをサポートしていきます。

● 健康啓発セミナー

2018年10月27日、大阪市西淀川区主催の「健康いきいき展」に参加し、「アーモンドで健康生活を!」と題した健康啓発セミナーを開催しました。セミナーでは、一般的な栄養学の話から、アーモンドチョコレートやアーモンドグリコといった商品を発売し、日本のアーモンド市場のパイオニアであるGlicoグループならではの、アーモンドの健康効果について講義しました。

お越しいただいた地域の方々には、「アーモンド効果」を飲みながら聞いていただき、効果的にアーモンドを食生活に取り入れる方法をお伝えしました。



健康啓発セミナーの様子



アーモンド効果

社会活動

地域経済への支援

Glicoグループでは、海外への教育支援等も通じて国内外の地域経済を支援する取り組みを行っています。

● タイで初の「GLICODE®」授業

海外への教育支援として、2019年2月14日、タイのチュラロンコン大学の附属小学校で、タイグリコのマーケティング部門

タイで実施した
「GLICODE®」を使った課外授業

の12名が、タイでは初めてとなるタイ語版「GLICODE®」を使った課外授業を実施しました。

地域福祉への支援

Glicoグループでは、全国各地で清掃や防犯活動等のボランティア活動を実施する他、復興や防災、行政による福祉活動の支援を行っています。

● グリコワゴンで被災地を訪問

「日本中に おいしさと健康 そしてワクワクする笑顔をお届けしたい。」そんな想いでGlicoグループの商品を積み込み、全国を巡るグリコワゴンは、2011年の東日本大震災から、被災地への訪問活動を継続しています。

2018年度は、2018年9月、東日本大震災の被災地である福島県白河市で行われた「風とロック芋煮会2018」への参加や、2019年1月に「平成30年7月豪雨」の被災地である広島県三原市を、2019年3月は北海道胆振東部地震の被災地である厚真町を訪問しました。

被災地の皆さまに笑顔になっていただけるよう、グリコワゴンとの写真撮影を楽しんでもらい、Glicoグループの商品詰め合わせ等を贈呈しました。



風とロック芋煮会2018を訪れたグリコワゴン



広島県三原市を訪れたグリコワゴン

● 地域社会と協力した防災訓練の実施

地域の方々の安全確保に協力することは、地域貢献活動の中でも重要な取り組み事項であると考えています。本社がある大阪市西淀川区は、海拔ゼロメートル地帯のため、周辺河川が決壊した際には、甚大な被害発生が予想されています。そのため、Glicoグループは有事の際にスムーズに対応できるよう、西淀川区が行う広域防災訓練に、2017年度より参加しています。2018年度は、地域住民約30名が参加し、Glicoグループ本社敷地内の体育館へ避難誘導を行いました。



Glicoグループ本社敷地内の体育館へ向かう地域住民の方々

● 食品ロス削減に向けたフードバンクへの寄贈の取り組み

食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物の削減に注力する等の取り組みの他、フードバンクへの商品寄贈を行っています。寄贈商品は主にヨーグルト、ジュース飲料、ビスケット等が中心です。

上海グリコでは緑洲フードバンクと連携し、中国貧困地域の小学生に商品を提供するとともに、食べ物を大切にする精神や良い食習慣に関する知識をお伝えしました。

協働するフードバンク団体へのアプローチも行っており、2018年度は、仙台グリコにおいてコープ東北サンネット事業連合が運営するコープフードバンクへ加工食品を初めて寄贈しました。今後も、食品ロス削減に向けて、地域の皆さまと協働しながら進めていきます。



コープ東北サンネット事業連合との取り組み



緑洲フードバンクでボランティア活動している様子

地域文化への支援

Glicoグループでは、地域イベントの維持・振興への協力を通じて、地域のスポーツや文化の発展を支援しています。

● 「グググッ!! グリコ展」への協力

2018年7月21日から9月2日まで、創業者の生誕の地である佐賀県の佐賀県立美術館にて創業者である江崎 利一やGlicoグループをテーマとした特別企画展「グググッ!! グリコ展」が開催され、Glicoグループは、数百点の展示物や江崎 利一にまつわる資料を提供しました。企画展では、創業時の商品を成型したハート型ローラー、映画付きグリコ自動販売機のレプリカ、歴代の大坂道頓堀グリコサインのジオラマ、栄養菓子グリコのおもちゃ等が展示され、訪れた多くの方々にGlicoグループの創業の精神や、佐賀県とGlicoグループの関わり等を紹介しました。



「グググッ!! グリコ展」の受付



「グググッ!! グリコ展」の展示物一例



株主・投資家とともに

私たちは、広く社会とのコミュニケーションを図り、
信頼関係を構築します

Glicoグループは株主・投資家の皆さまをはじめ全てのステークホルダーの皆さまに対し、法令等に基づいた情報開示の他、理解を深めていただくため、幅広く適正な資料開示に努めています。また株主・投資家の皆さまとの対話を重視し、株主総会や決算説明会等を通じて決算内容や経営方針、経営戦略について経営陣が直接説明する等、積極的なコミュニケーションを図っています。

IR基本方針

Glicoグループは、株主・投資家の皆さまを特に重要なステークホルダーであると認識し、適切に企業情報を開示することで、長期的な信頼関係を構築し、企業価値が適正に評価されることを目指します。

情報開示は、法令遵守、適時性、公平性、継続性を確保し、積極的に実践します。

株主・投資家の皆さまとの信頼関係の構築

企業価値の適正な評価

積極的な情報開示

法令遵守

適時性

公平性

継続性

ウェブサイトでの情報公開

ウェブサイトを通じてIR情報を公開し、株主・投資家をはじめ全てのステークホルダーの皆さまに対する適時適正な情報開示に努めています。

専用ウェブサイトでIRニュースをタイムリーに発信する他、決算短信、決算説明会資料、事業報告書、ファクトブック等のIR資料を掲載しています。

また英文で決算短信、決算説明会資料、アニュアルレポート等を掲載し、外国人投資家の皆さまへの情報発信も積極的に行っています。さらに事業内容や品質への取り組みをわかりやすく紹介するウェブサイトを設け、Glicoグループの事業姿勢や活動をご理解いただけるウェブサイトづくりに取り組んでいます。



ウェブサイト「IR情報」トップページ

機関投資家との対話

機関投資家の皆さまに対して毎年5月と11月の年2回、決算説明会を開催し、経営トップが決算内容や経営方針、経営戦略について説明しています。また証券会社が主催するコンファレンスミーティングへも積極的に参加している他、スモールミーティングや施設見学会、個別取材にも随時対応し、機関投資家の皆さまと活発なコミュニケーションを図っています。



決算説明会（年2回開催）

個人株主との対話

株主総会を株主の皆さまと直接対話できる重要な機会と捉え、株主総会の活性化に向けた取り組みを行っています。議決権行使の電子化も導入し、株主の皆さまが決議に参加いただきやすい環境を整えています。

2018年の第113回定時株主総会では、2017年度の事業報告とともに、中期経営計画の達成に向けた事業方針や重点取り組みについて説明し、株主の皆さまと活発なコミュニケーションを図ることができました。また、個人投資家向けの会社説明会を開催し、Glicoグループの経営理念や事業計画について理解を深めていただく機会を設けました。

その他、年2回、事業報告書を発行し、Glicoグループの事業について報告しています。



事業報告書
(年2回発行)

株主優待について

株主の皆さまの日頃のご支援に深く感謝するとともに、Glicoグループに対するご理解を深めていただくために、株主優待制度を実施しています。2018年度は、100株以上ご所有の株主の皆さまにGlicoグループ商品の詰合せを贈呈しました。

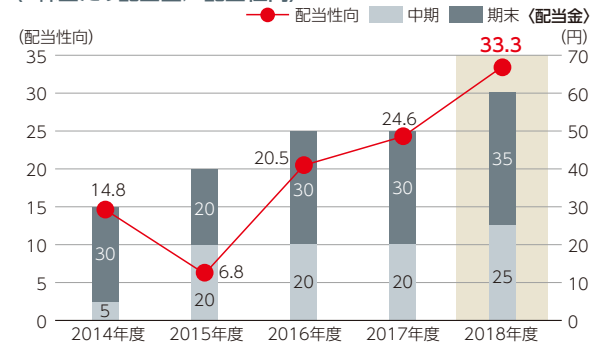


※商品写真はイメージ

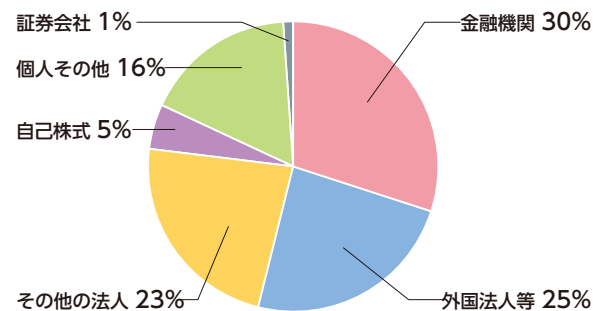
利益配分に対する考え方

成長投資を優先し、企業価値の長期的最大化を目指しています。また、配当については、連結配当性向25%以上を目標に、安定的かつ継続的な利益還元を行います。2018年度の年間配当金は、1株につき60円としました。また、株主還元強化策の一つとして、2019年5月の取締役会で50億円(上限)の自己株式取得を決議しました。

〈1株当たり配当金／配当性向〉



所有者別株式数比率 (2019年3月末日現在)



2018年度の主なIR活動

機関投資家向け

- 決算説明会の開催
- 個別取材への対応
- 証券会社主催のコンファレンスミーティングへの参加
- アニュアルレポートの発行
- ファクトブックの発行

個人投資家向け

- 事業報告書の発行(年2回)
- 会社説明会の開催

ウェブサイトでの情報開示

- IRニュース
- アニュアルレポート
- 決算短信
- ファクトブック
- 決算説明会資料
- 事業報告書
- 有価証券報告書

社内へのフィードバック

- 取締役会への報告



コーポレート・ガバナンス

私たちは、コーポレート・ガバナンス体制の継続的な充実に取り組みます

Glicoグループは、商品の製造・販売、サービスの提供に関連する法令、業界ルール、社会的規範を十分理解し、遵守しています。株主をはじめとする全てのステークホルダーのため、Glicoグループが持続的に成長すること、中長期的な企業価値を向上させること、および経営の透明性・効率性を向上させることを基本としてコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。その一環としてリスクマネジメント委員会等を設置し、内部統制およびリスク管理を徹底し、適正かつ健全な経営を行っています。

■ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

Glicoグループは、企業理念およびGlicoスピリットに基づき、持続的に成長すること、中長期的な企業価値を向上させること、および経営の透明性・効率性を向上させることを目的に、次の基本方針に則り、コーポレート・ガバナンス体制の継続的な充実に取り組みます。（右参照→）

基本方針

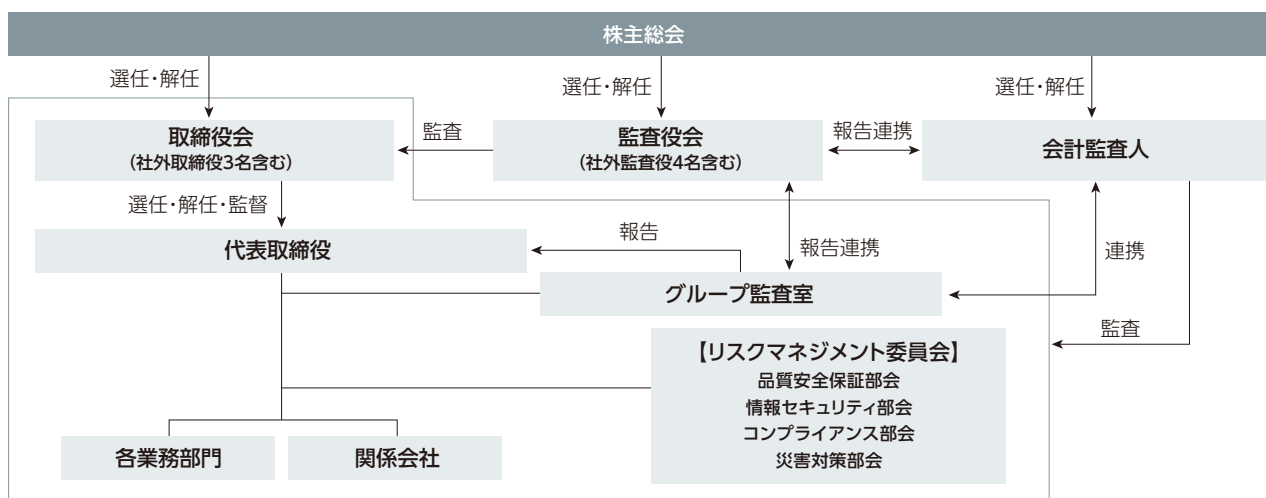
1. 株主の皆様への権利の尊重・平等性の確保に努めます。
2. 株主の皆様を含む当社のステークホルダー（お客様、取引先、債権者、地域社会、従業員等）との適切な協働に努め、良好・円滑な関係を構築します。
3. 会社情報の適切な情報開示と透明性を確保します。
4. 透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うため、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
5. 株主の皆様との建設的な対話に努めます。

■ コーポレート・ガバナンス体制

株主総会を最高意思決定機関とし、各業務部門や関係会社による業務執行、執行状況を監督する取締役会、取締役会の職務執

行を監視・監査する監査役会を中心として、コーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

〈コーポレート・ガバナンス体制図〉



● 取締役会

取締役会は、取締役7名（うち社外取締役3名、2019年3月31日時点）で構成され、原則として毎月1回開催され、法令・定款に定められた事項や業務執行に関する重要事項等の審議・決定を行っています。

またGlicoグループは執行役員制度を採用しており、業務監督機能と業務執行の充実に努めています。

● 監査役会

監査役会は5名の監査役（うち社外監査役4名、2019年3月31日時点）によって運営されています。各監査役は取締役会をはじめとする社内の会議に積極的に参加し、取締役の業務執行に関する監査を行っています。

当該体制を採用する理由

取締役会および監査役会を設置する統治体制を採用しています。当体制を採用することで、取締役会における経営の意思決定機能、および業務執行を管理監督する機能が充実するとともに、経営効率の向上、的確かつ戦略的な経営判断が可能になっています。

内部統制

業務執行を適正かつ健全に行うため、取締役会は実効性のある内部統制システムの構築と、法令および定款等の遵守体制の確立に努めています。また監査役会が内部統制システムを監査し、有効性と機能を確保しています。

さらに内部監査部門として社長直轄のグループ監査室を設置し、グループ各社での内部統制の有効性と妥当性も確保しています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント委員会を設置し、リスクを早期発見し、対応するとともに、そのための情報収集と教育・訓練、定期的な会議の開催等も一元的に実施しています。

委員会の下に4つの部会を編成し、複数部門で横断的かつ専門的にリスク管理に関わる活動に取り組んでいます。品質安全保証部会では品質保証活動の強化を行い、情報セキュリティ部会では、電子および非電子媒体の情報セキュリティを推進しています。またコンプライアンス部会では、遵守すべき法令や社内規程、各種ルールを整備、その周知徹底を行い、災害対策部会では、グループのBCP（事業継続計画）体系を整備し、リスクを洗い出すとともに対応策を策定、周知・教育・訓練を行っています。

さらに重大事案発生時には、当委員会とは別に緊急危機対策本部を設置することとしています。

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力に対しては、一切の関係を遮断するとともに、弁護士や警察等の外部専門機関と緊密に連携し、毅然とした姿勢で対応することとしています。



広域BCP訓練の様子

コンプライアンス推進について

法令および定款を遵守して全ての職務を執行するため、具体的な行動基準としてGlicoグループ行動規範を制定し、グループの全ての役員および従業員に周知しています。

またコンプライアンス部会が中心となって、Glicoグループおよび子会社に対し、法令・社内規程遵守の周知徹底と実践の励行を行うとともに、コンプライアンス研修等の必要な教育を実施、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

Glicoグループの社員が重大な法令・定款違反や不正行為、あるいはGlicoグループに著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知ったときには、速やかに監査役に報告する体制も構築しています。

Glicoコンプライアンスホットライン

Glicoグループの全ての役員および従業員が法令や社内規程の違反、または違反の疑いを発見した際、自身が不利益を被る危険を懸念することなく会社に伝えられる内部通報窓口としてGlicoコンプライアンスホットラインを設置しています。通報が為された場合、経営陣から独立した調査機関が対応します。

内部監査および監査役監査について

内部監査および監査役監査の組織は、内部監査専門部署であるグループ監査室および5名の監査役で構成されています。グループ監査室では、財務報告に関わる内部統制評価の方法について会計監査人から助言を受け整備および運用の評価を実施しています。また監査役会とも連携を図りながら、各事業所に対して内部統制全般に関わる業務を監査し、その結果を社長および監査役に報告しています。

監査役は、期初に策定した監査計画に基づき、業務全般にわたる監査を実施しています。監査役は取締役会に常時出席することはもとより常勤監査役は社内の重要会議にも積極的に出席し、法令違反や定款違反、株主利益を侵害する事実の有無について重点的に監査しています。

会計監査人は、監査計画および監査経過について監査役と年4回の意見交換を行い、相互連携を図りながら監査を行っています。会計監査人による監査結果の報告には、監査役およびグループ財務責任者が出席しています。さらに重要な関係会社については、会社法監査を監査法人に委託しています。

社外取締役および社外監査役について

社外取締役は3名、社外監査役は4名です（2019年3月31日時点）。社外役員を選任するための独立性に関する基準または方針について特段の定めはありませんが、選任にあたっては、証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にし、社会的経験・知見から独立的な立場でGlicoグループの経営に資する人選を行っています。

社外取締役においては、取締役会での議案審議にあたって適宜質問や意見表明を行うなど、その時々意見表明を通じて取締役会の活性化を図るとともに、経営監視機能としての役割を果たしていると判断しています。

CSR活動総括

2018年度は、GlicoグループのCSRの考え方のもと、CSR委員会の5つの部会を中心に活動を推進しました。また、職場別のCSR研修を実施し、日本の製造会社における研修に注力したほか、社内情報ツールを活用し、一人ひとりの意識・知識の向上を図りました。

2019年度以降は、部会活動を強化していくとともに、SDGsに代表される国際的な目標・指標との接合を図ることを視野にいれて取り組んでいきます。

部会	部会の目的(ありたい姿)	2018年度の主な活動実績
環境部会 	CO ₂ 削減や持続可能な資源の活用等をはじめとした環境負荷低減を通じて自然環境の保全に貢献し、地球に生きる様々な生物との共生を実現します。	●包材に関する環境配慮取り組みの推進に向けた目標を策定(2019年3月 江崎グリコ) ①3Rの推進による包材使用量の低減 ②環境配慮型素材の採用
消費者部会 	世界のお客様の信頼に応える安全安心な商品・サービスと有益な情報を提供し、ココロとカラダの健康に貢献します。	●従業員の消費者志向醸成(受電研修、会員サイト「グリコクラブ」のファンミーティング開催、「失敗から学ぶ資料室」開設、eラーニング等) ●お客様の声の収集・活用 ●お客様が期待する情報(商品パッケージ・ホームページ等)に関する調査の実施
公正取引部会 	バリューチェーンを通じて、人権尊重・腐敗防止・競争法等を遵守することにより、付加価値の高い事業活動を推進します。	●公正取引基本方針の策定 ●RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)へ加盟することを決定(2019年度 加盟手続き・活動開始予定) ●ASEAN、中国における贈収賄防止ルールと教育の順次導入 ●日本における独禁法違反ガイドラインの策定と教育の実施
人財部会 	Glicoスピリットを発揮する人財のダイバーシティ実現と健康経営を通じて、イノベーション創出に挑戦します。	●Glicoグループ行動規範の改訂 ●ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ①女性活躍推進施策の実施 ②障がい者雇用に関する目標の策定(日本)
地域貢献部会 	各事業拠点を活動基盤に、教育支援および経済・福祉・文化面の社会活動を通じて、地域の人々と共生し、コミュニティの発展に貢献します。	●地域貢献基本方針を策定 ●事業拠点等を中心とした地域貢献活動を実施 ①教育支援活動(「GLICODE®(グリコード)」、健康啓発セミナー等) ②社会活動(復興・防災支援、フードバンクとの共働等)

Glicoグループ会社一覧

〈日本〉

江崎グリコ株式会社
仙台グリコ株式会社
東北グリコ乳業株式会社
茨城グリコ株式会社
那須グリコ乳業株式会社
関東グリコ株式会社
グリコ千葉アイスクリーム株式会社
東京グリコ乳業株式会社
岐阜グリコ乳業株式会社
三重グリコ株式会社
関西グリコ株式会社
グリコ兵庫アイスクリーム株式会社
グリコアイクレオ株式会社
鳥取グリコ株式会社
佐賀グリコ乳業株式会社
グリコチャネルクリエイティブ株式会社
グリコ栄養食品株式会社
中部グリコ栄食株式会社
東北フローズン株式会社
関西フローズン株式会社
江栄情報システム株式会社

〈中国〉

Shanghai Ezaki Glico Foods Co., Ltd.
(上海江崎格力高食品有限公司)
Shanghai Ezaki Glico Nanfeng Foods Co., Ltd.
(上海江崎格力高南奉食品有限公司)

〈ASEAN〉

Glico Asia Pacific Pte. Ltd.
Thai Glico Co., Ltd.
Glico Frozen (Thailand) Co., Ltd.
PT Glico Indonesia
PT. Glico-Wings
Glico Malaysia Sdn. Bhd.
Ezaki Glico Vietnam Co., Ltd.
Glico Philippines, Inc.

〈北米〉

Glico North America Holdings, Inc.
Ezaki Glico USA Corporation
TCHO Ventures, Inc.
Glico Canada Corporation

〈その他〉

Glico-Haitai Co., Ltd.
Generale Biscuit Glico France S.A.

江崎グリコ株式会社

<http://www.glico.com/jp/>